

3 生活の価値観

(1) 県計でみた価値観

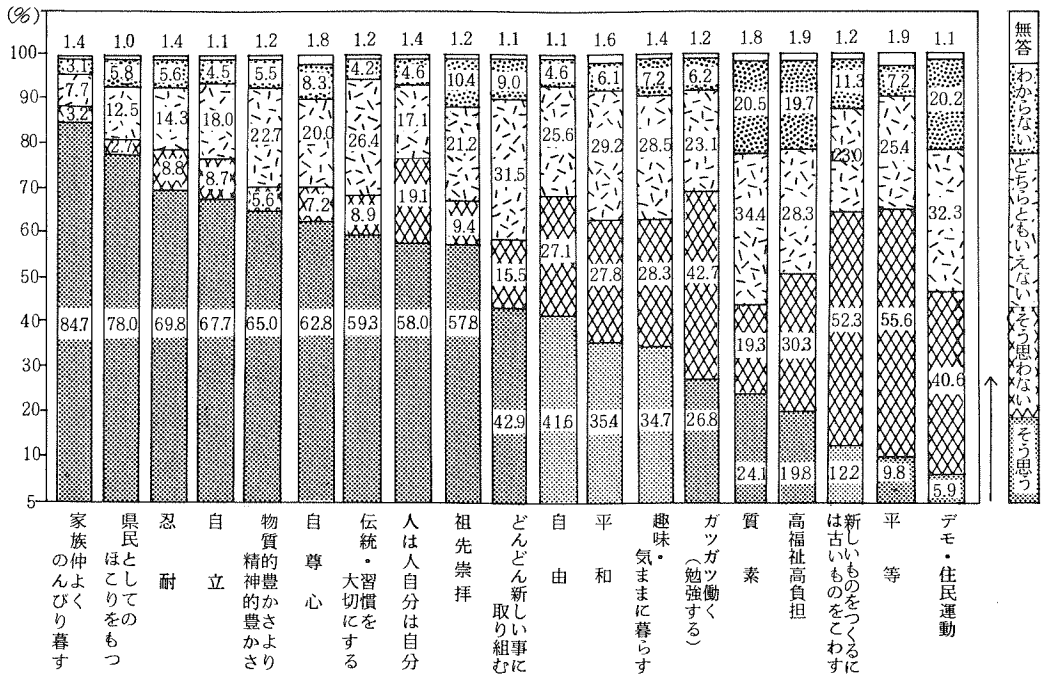
生活の価値観について、19項目についての考え方を「そう思う」、「そう思わない」、「どちらともいえない」、「わからない」方式で聞いたところ、「そう思う」で最も評価の高いのは、「家族仲よくのんびり暮したい」(84.7%)で、次いで、「沖縄県民として、ほこりを持ちたい」(78.0%)、「何ごとも忍耐づよくやるものには勝てない」(69.8%)、「他人に頼らず自立すべきだ」(67.7%)、「物質的豊かさよりも精神的豊かさがより大切だ」(65.0%)、「自尊心は大切だ」(62.8%)とつづき、19項目中6割をこえたのは、これら6項目であった。これに対し、「デモや住民運動には積極的に参加したい」が5.9%、「今の世の中はほんとに平等である」が9.8%、「新しいものを作るには、いまあるものをこわさなければならない」が12.2%とこれら3項目は相対的に低い評価となっている。

逆に、「そう思わない」という面からみると、「今の世の中はほんとに平等である」と「新しいものを作るには、いまあるものをこわさなければならない」が、それぞれ55.6%、52.3%と5割をこえ、「ガツガツ働く(勉強する)ことは、生活をよくするためにはやむをえないことだ」が42.7%、「デモや住民運動には積極的に参加したい」が40.6%とつづき、これら4項目については、否定的な考え方が相対的に強いようである。

一方、「そう思う」と「そう思わない」の両面比較差でみると、「そう思わない」と答えた否定的な考え方が、「そう思う」を上回ったのは、「デモ、住民運動」(△34.7ポイント)、「ガツガツ働く」(△15.9ポイント)、「平等」(△45.8ポイント)、「新しいもの……」(△40.1ポイント)、「高福祉高負担」(△10.5ポイント)の5項目で、他の項目については、「そう思う」が上回っている。中でも、両面の意識差が最も大きいのは、「そう思う」の面から「家族仲よくのんびり暮す」が81.5ポイント、「そう思わない」の面からは「平等」が△45.8ポイントと際立っている。

なお、「質素は美德である」、「高福祉高負担」、「デモ、住民運動」について、「わからない」とする人がそれぞれ20.5%、19.7%、20.2%と相対的に割合が高いこと、また、「質素は美德」について、「そう思う」(24.1%)、「そう思わない」(19.3%)を「どちらともいえない」(34.4%)が上回っているなど特徴的である。

図5-3-1 生活価値観の構成図(計)



注) 四捨五入の為、必ずしも100%にならない。

図5-3-2 そう思わない(計)

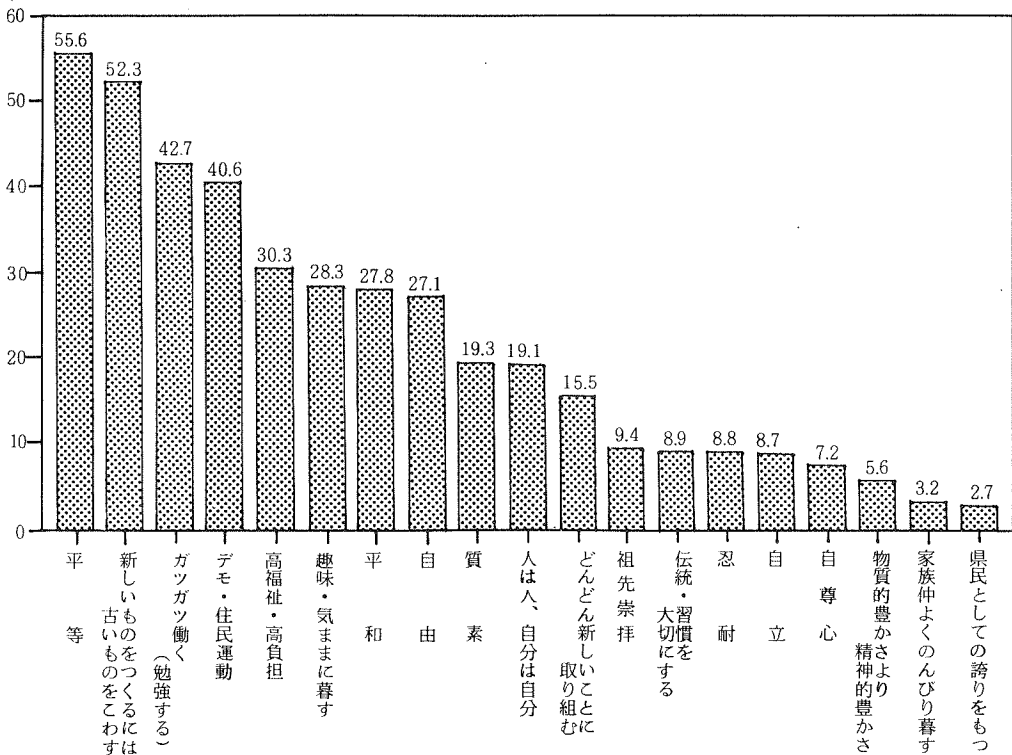
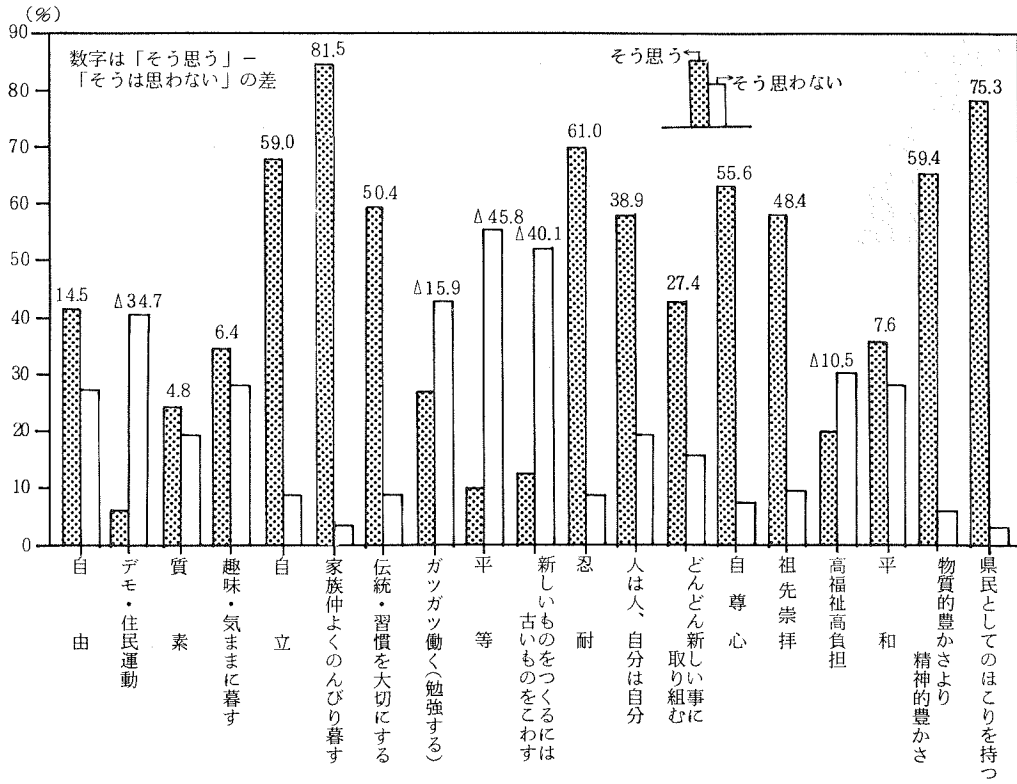


図5-3-3 そう思う、そう思わないの比較(計)



(2) 男女別にみた価値観

次に生活価値観を男女別にみると、「そう思う」面では、男女ともやはり「家族仲よくのんびり暮らす」が最も多く、男子82.7%、女子86.8%と、どちらとも8割をこえる評価となっている。また、評価度合いに若干の差があるものの、男女とも2位として評価した「県民としてのほこりを持ちたい」（男77.7%、女78.6%）についても順位的には男女とも同じ考え方となっている。しかし、3位以下については、男子が「自立」（71.7%）を3位としているのに対し、女子は「忍耐」（72.5%）を3位とするなど、評価に順位的な差がみられる。逆に、評価順位が下位の方では、最も低い順で「デモ、住民運動」（男6.9%女4.9%）、「平等」（男9.7%、女10.1%）、「新しいものをつくる……」（男12.6%、女11.9%）、「高福祉高負担」（男20.8%、女18.7%）、「質素」（男24.5%、女23.7%）、「ガツガツ働く」（男27.9%女26.0%）とこれら6項目が評価度合いに差はあるものの男女とも同順となっている。

一方、「そう思わない」面からみると、評価度合いに若干の差があるものの男女とも1位に「平等」（男57.2%、女54.3%）、2位に「新しいものをつくる……」（男50.7%、女54.0%）、3位に「ガツガツ働く」（男42.6%、女42.8%）、4位に「デモ、住民運動」（男40.5%、女41.1%）と1～4位までは順位的に同じ見方をしている。5位以下については、項目間に順位の入替えが見られ、男女間に見方の差がみられるが、特に、「趣味にいき、きままにくらすのが好きだ」については、男子26.4%と8位に評価しているのに対し、女子は30.1%と5位に評価するなど特徴的といえよう。

また、「そう思う」について、男子が女子を上回る項目は、19項目中9項目あり、中でも「どんどん新しい事に取り組む」について8.0ポイント、「他人に頼らず自立すべきだ」について7.8ポイント上回るなど、男子の積極的な評価がうかがわれる。一方、女子が男子を上回る項目は、その数では10項目と積極性がみられるものの、女子が男子を大きく上回ったのは「何ごとも忍耐づよくやるものには勝てない」が5.3ポイントと男子が示す最高の8.0ポイントにはおよばなかった。さらに、「そう思わない」面での男女間の評価度合いを比較すると、19項目中12項目男子が女子を上回り、否定的な考え方は総じて女子より男子に多いようである。とりわけ、度合い差の大きいのは、「人は人、自分は自分、それぞれ別の生き方がある」について、男子が女子を3.5ポイント上回り、「趣味、気ままに暮す」については、女子が男子を3.7ポイント上回るなど特徴的である。

図5-3-4 そう思う(男)

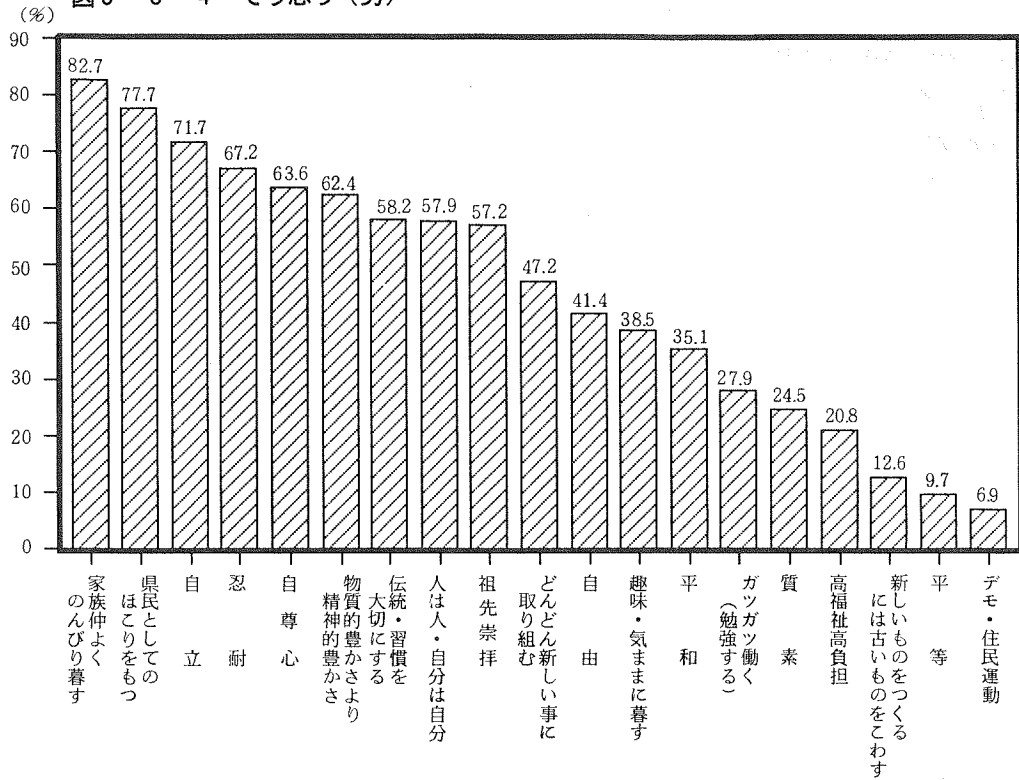
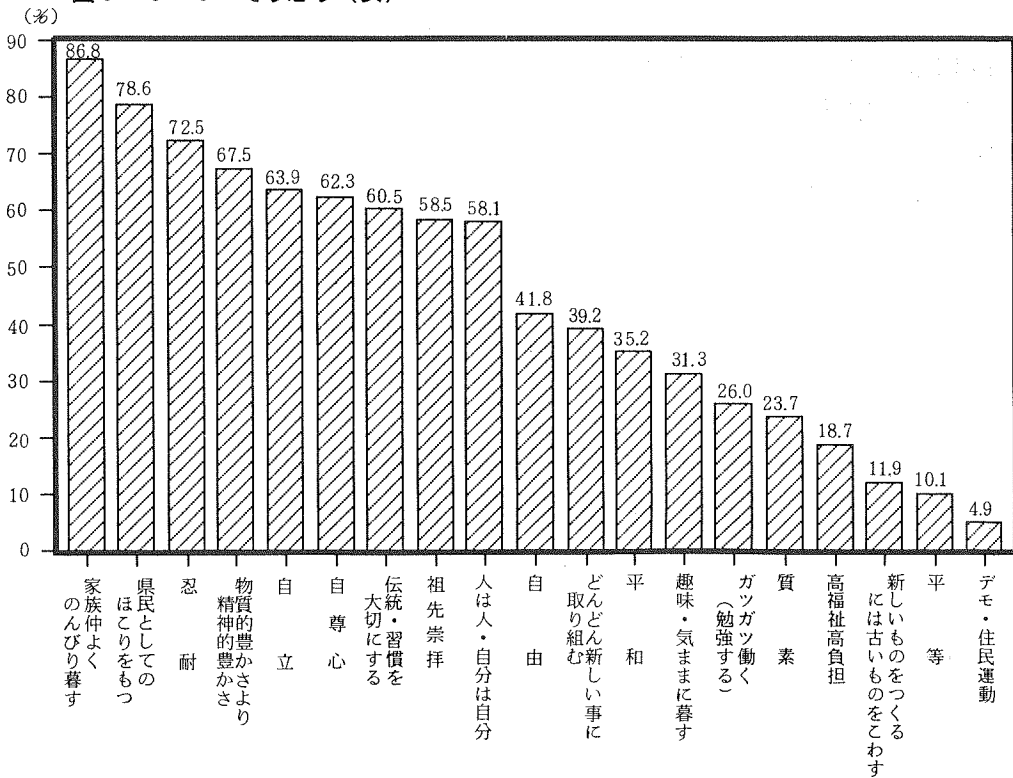
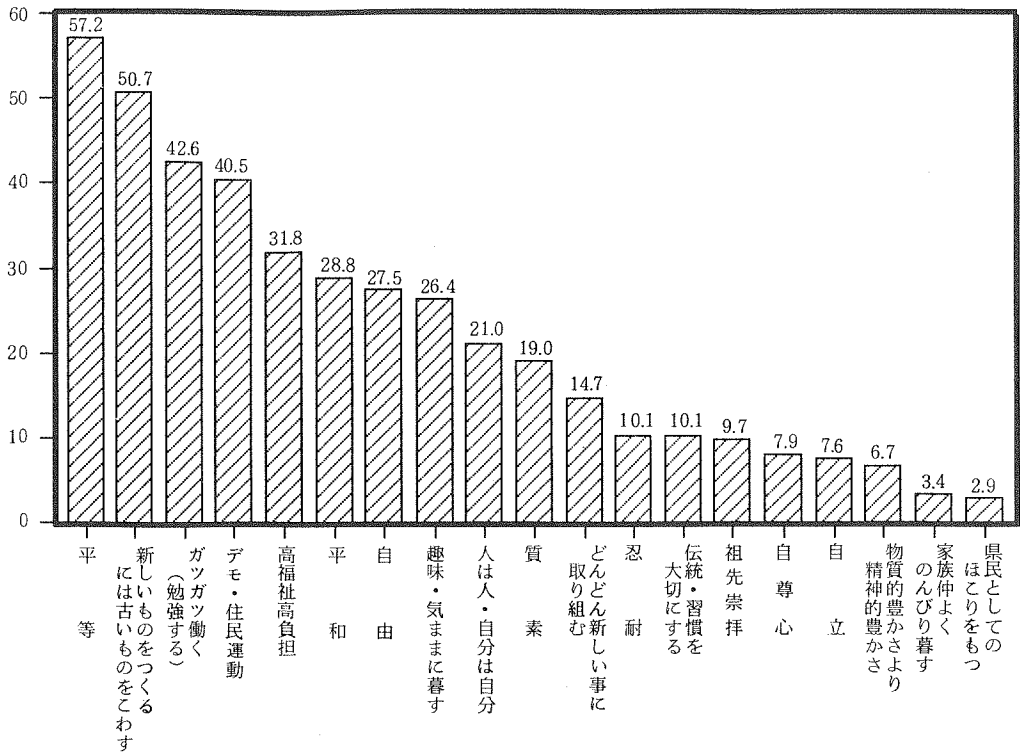


図5-3-5 そう思う(女)



(%) 図5-3-6 そう思わない(男)



(%) 図5-3-7 そう思わない(女)

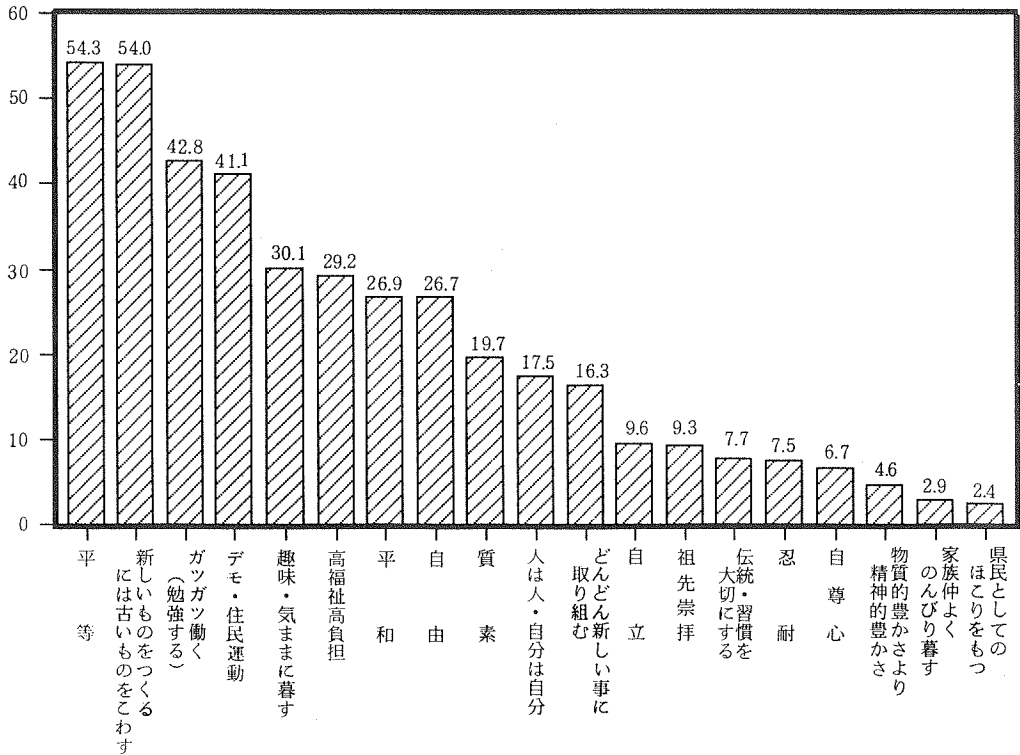


図5-3-8 「そう思う」についての男女比較

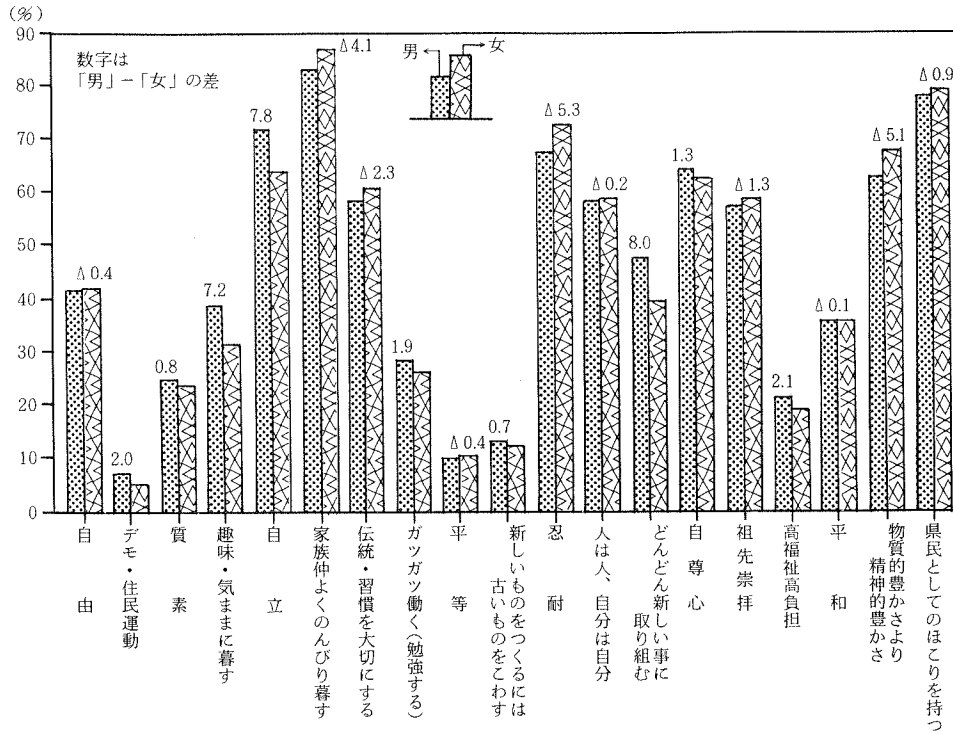
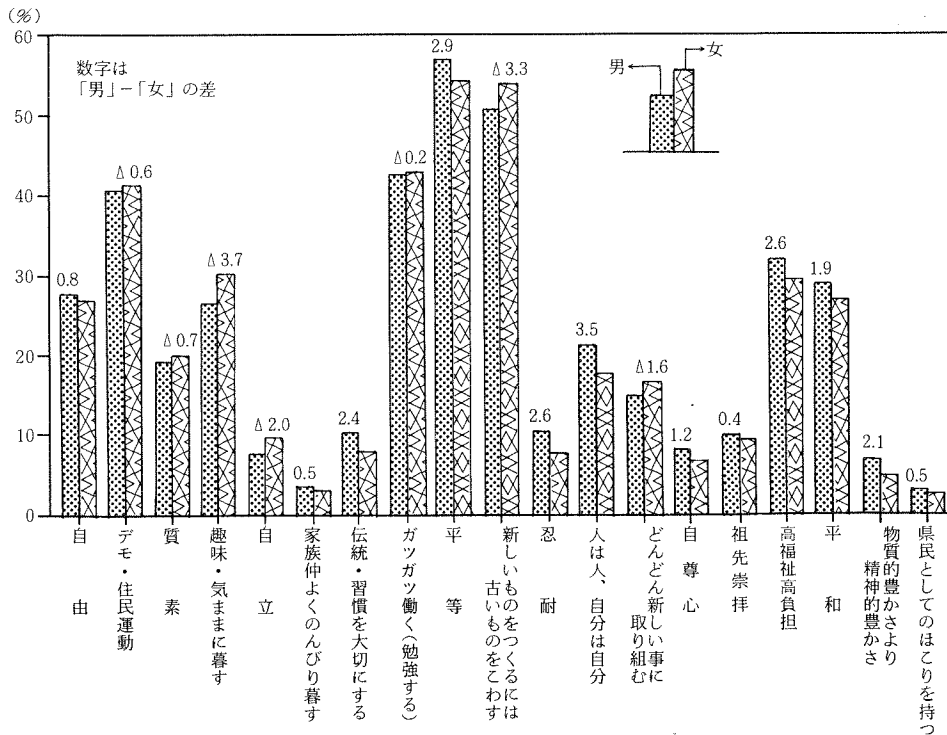


図5-3-9 「そう思わない」についての男女比較



(3) 年齢階級別にみた価値観

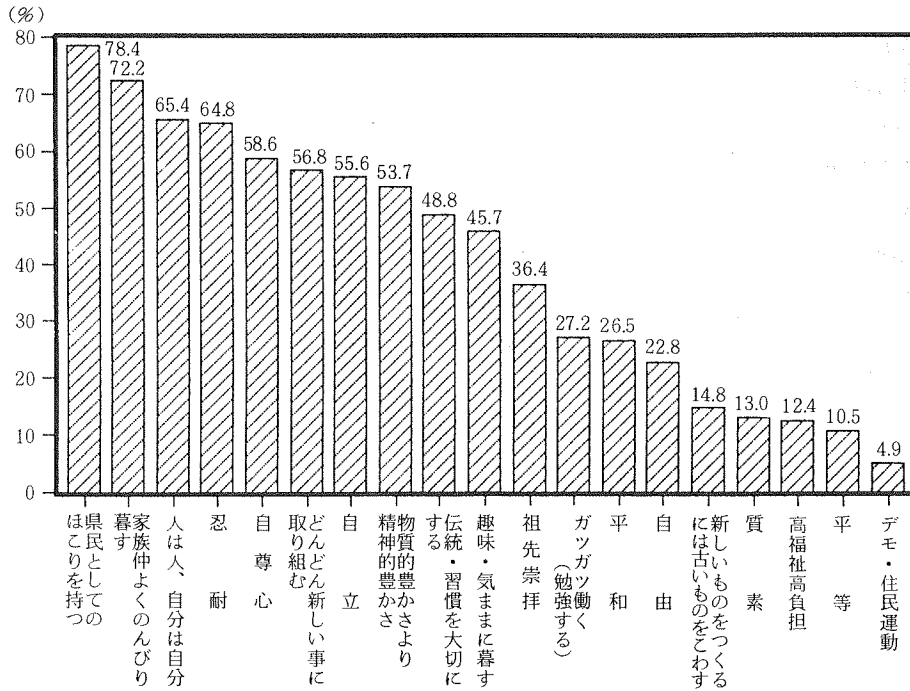
次に、年齢別にみると、「そう思う」について、最も評価の高いのは、20、30、40、50代、60才以上が「家族仲よくのんびり暮す」、10代が「沖縄県民としてほこりを持ちたい」となっている。また、「家族仲良く……」については、10代が2位としているのに対し、他のすべての年代層で「沖縄県民……」を2位に評価するなど、この2項目については、全体的に高い評価となっている。また、10代と20代が、「人は人、自分は自分」をそれぞれ65.4%、65.1%と3位に評価しているのに対し、30代と40代は「自立」（30代69.0%、40代73.0%）を、50代が「忍耐」（71.6%）、60才以上が「祖先崇拜は心のよりどころとして必要だ」（78.5%）をそれぞれ3位として評価するなど、順位的に見方を異にしている。他方、相対的に評価の低い「デモ・住民運動」、「平等」、「新しいものをつくるには……」については、各年代層で共通した意識となっている。また、「高福祉高負担」については、相対的に評価は低いが、年代が高まるにつれて評価が高くなる傾向にあり、「祖先崇拜」についても同様な傾向がみられ、特に60才以上が78.5%の評価を示し、順位的にも3位とするなど他の年代に比べ評価は高くなっている。

一方、「そう思わない」面からみると、各年代とも順位こそ異なるが「平等」と「新しいものをつくる……」の2項目で割合が高く、5割以上の人々がそれに否定的な考え方を持っている。また、「自由」については、10代が40.1%と他の年代より突出して高く、「デモ住民運動」、「質素」、「趣味、気ままに暮らす」、「伝統、習慣を大切にする」、「どんどん新しい事に取り組む」の5項目については、評価度合いは異なるものの、10代から30代あるいは40代までは年代とともに否定的な考えかたが強く、40代、あるいは50代、60才以上と高年齢になるにつれて、それが弱まっていくという傾向がみられる。

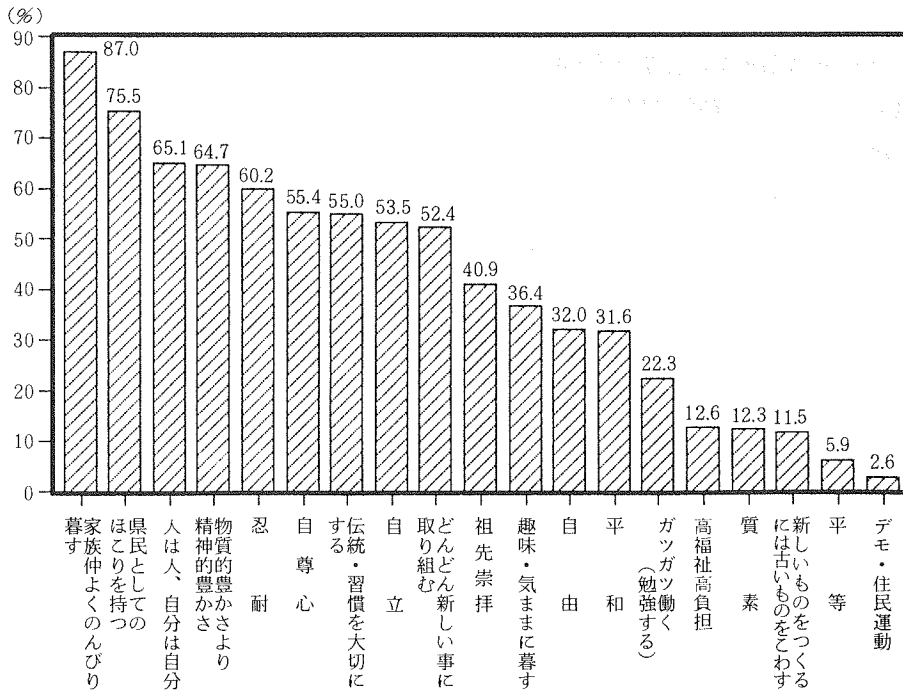
さらに、「そう思う」と「そう思わない」の比較（差）でみると、各年代とも全項目（19）中「そう思う」が「そう思わない」を上回る数が多く、中でも、「家族仲よくのんびり暮す」については、10代を除いてすべての他の年代で「そう思う」－「そう思わない」の差が80ポイントを上回るなど高い評価となっている。また、「今の世の中はほんとに自由である」と「今の世の中はほんとに平和である」については、10代のみが「そう思わない」が「そう思う」を上回り、否定的な見方が相対的に強く、「質素は美徳である」については、20代と30代、「趣味、気ままに暮す」は30代のみが同様に否定的な見方が強くなっている。

図5-3-10 「そう思う」年齢階級別

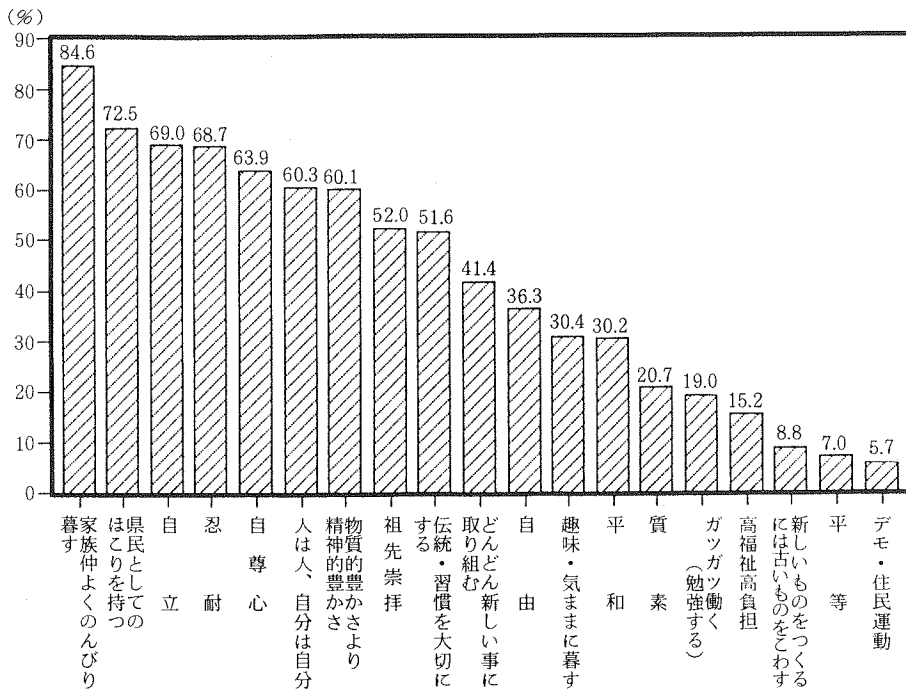
① (15~19)



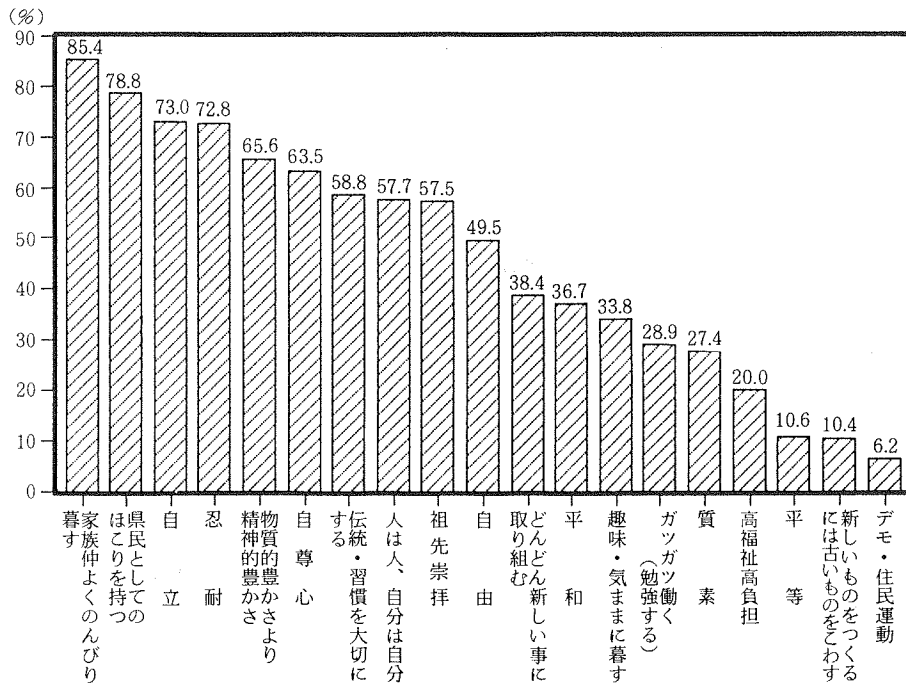
② (20~29)



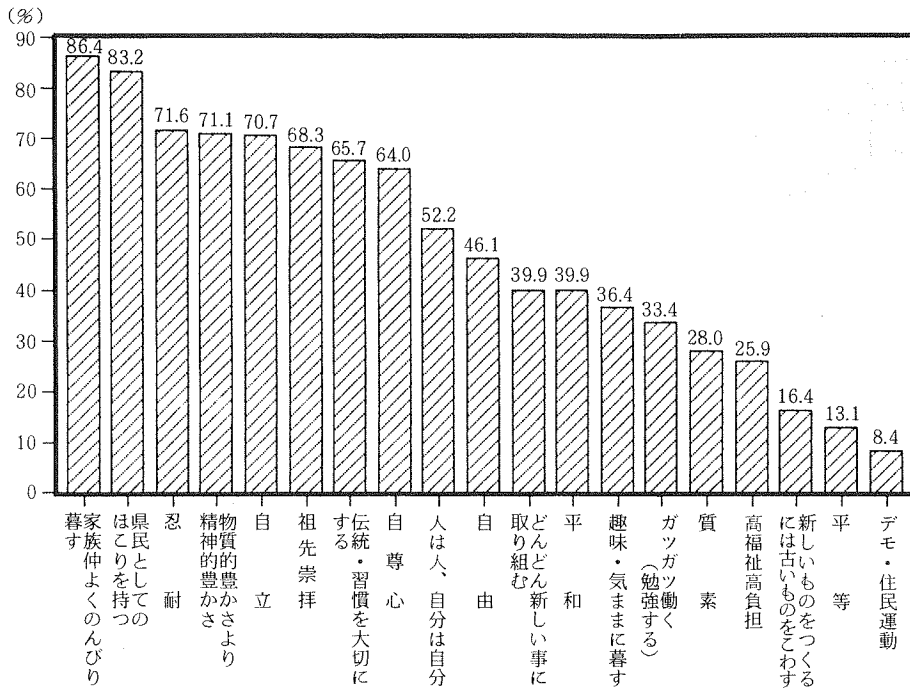
③ (30~39)



④ (40~49)



⑤ (50~59)



⑥ (60~70)

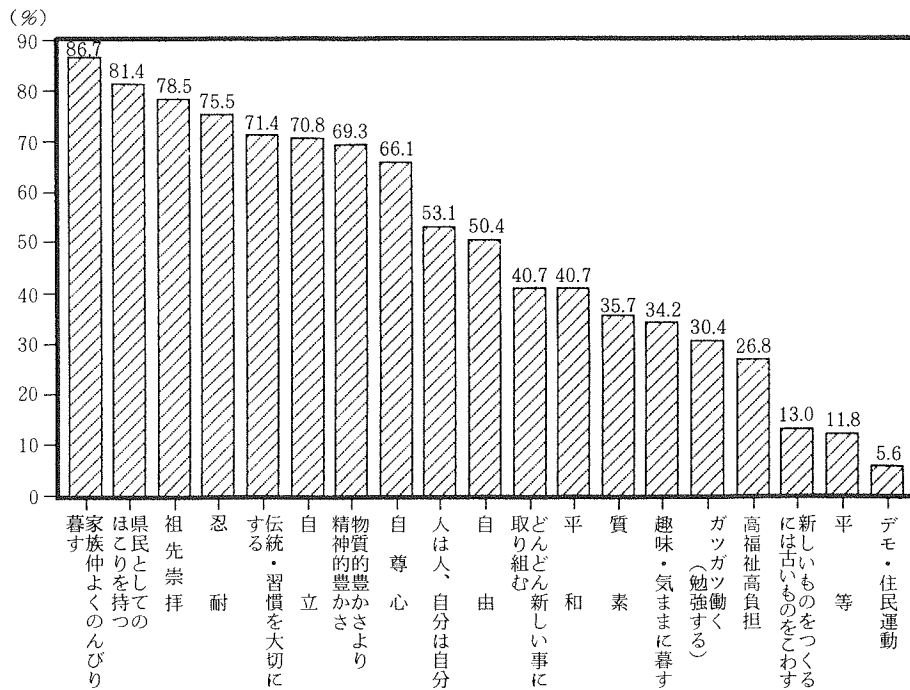


図5-3-11 「そう思う」についての年齢階級別比較（計）

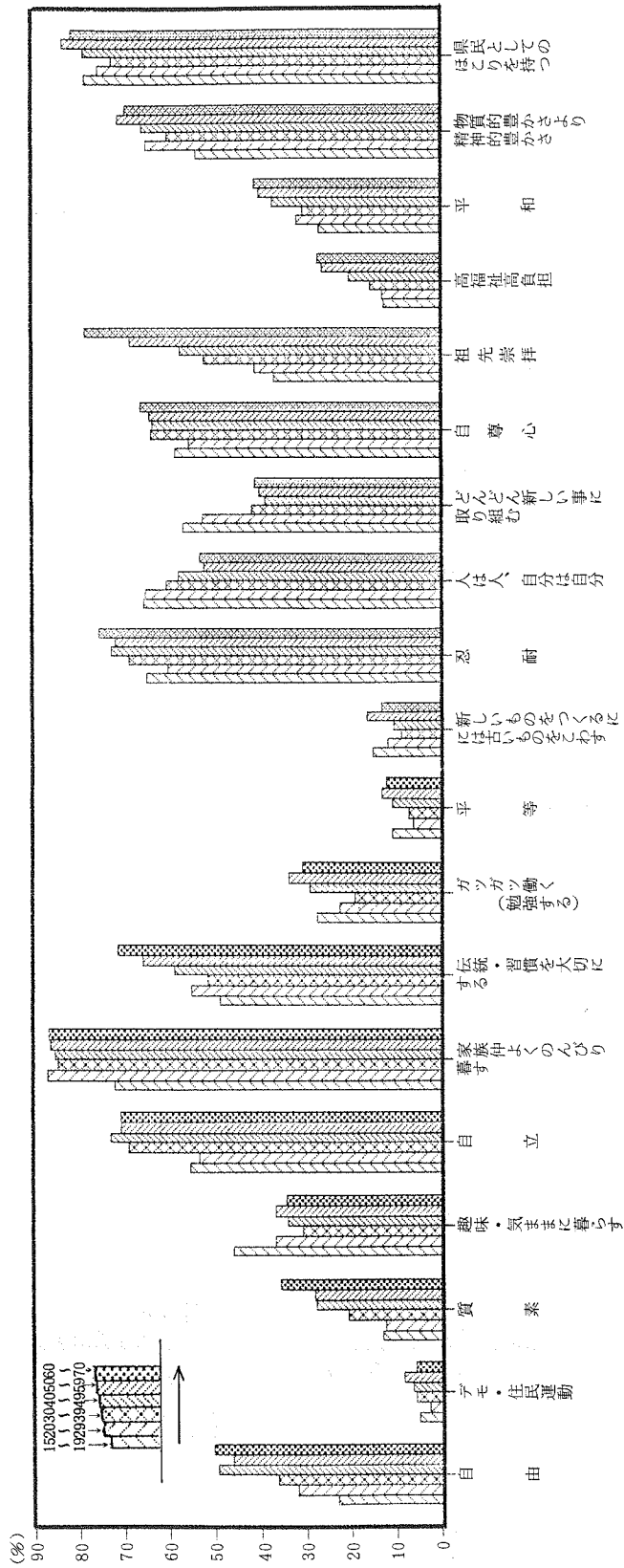
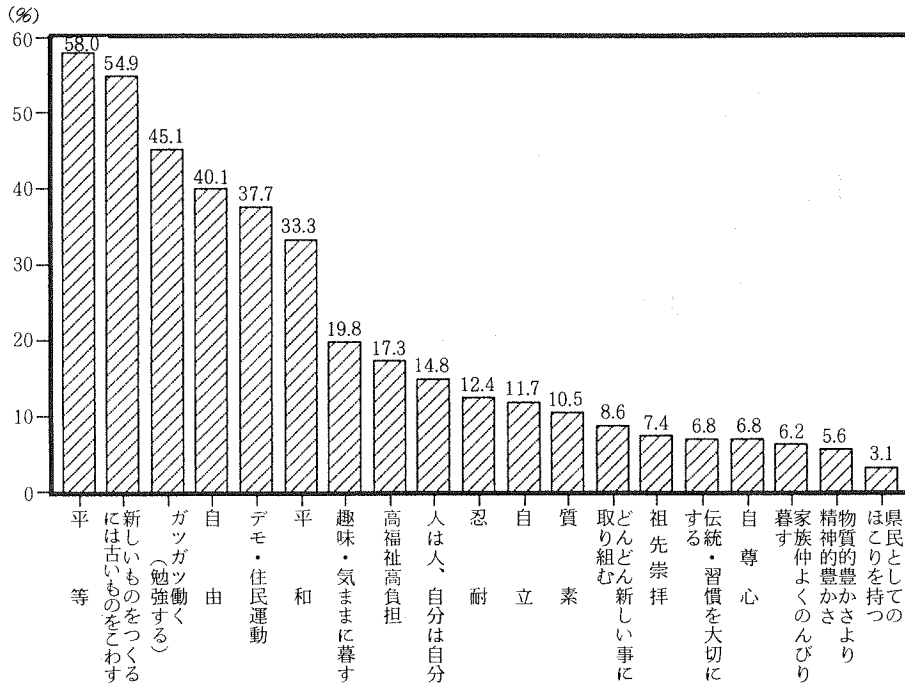
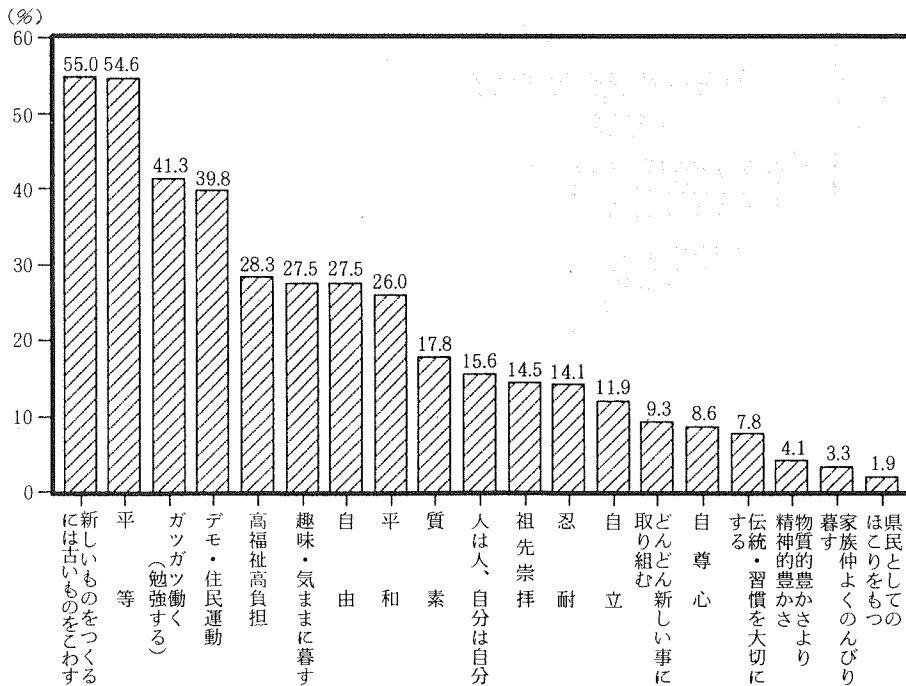


図 5 - 3 - 12 「そう思わない」年齢階級別

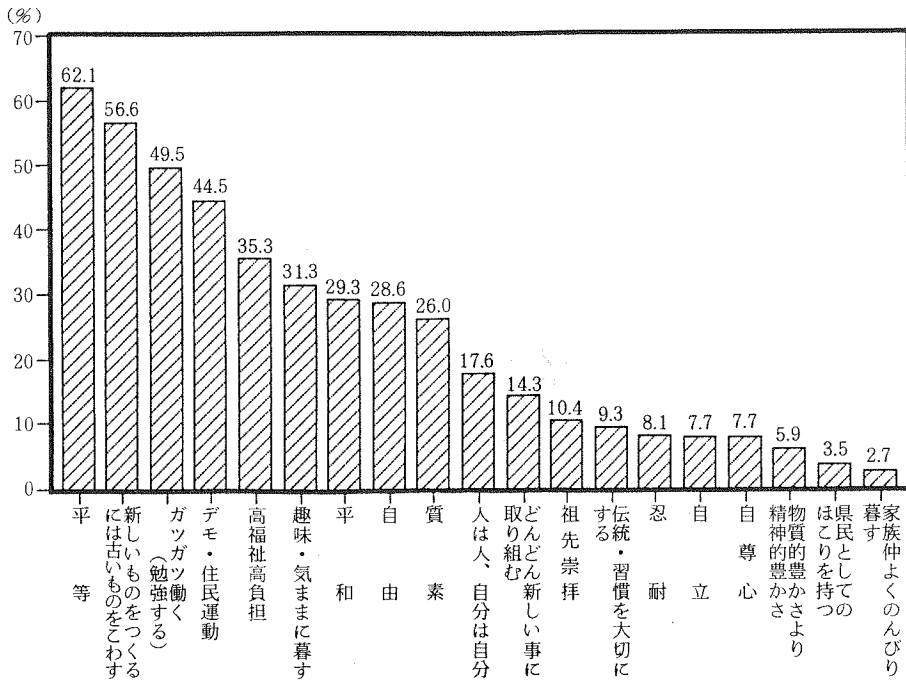
① (15~19)



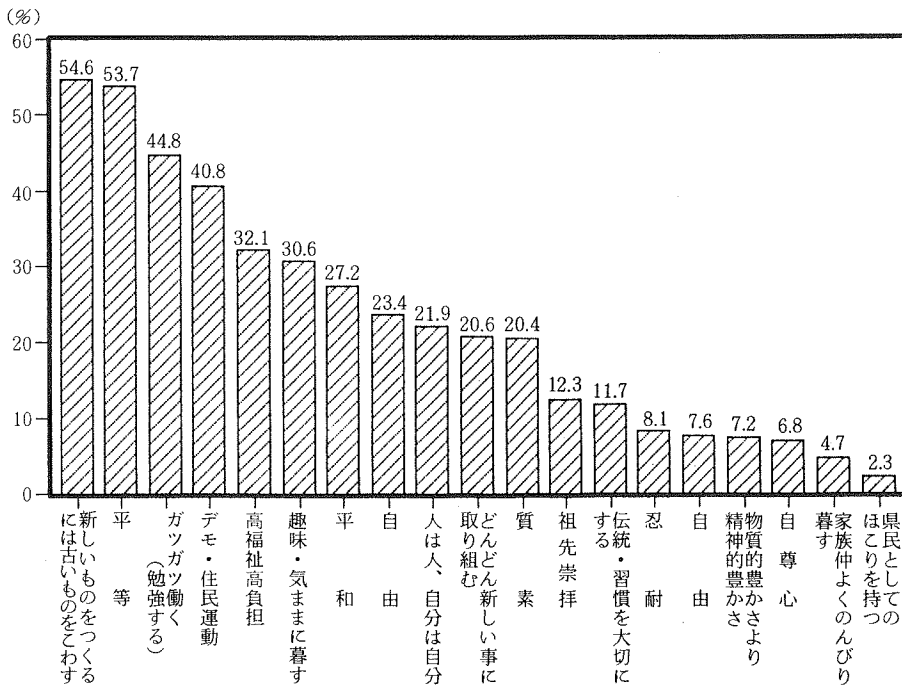
② (20~29)



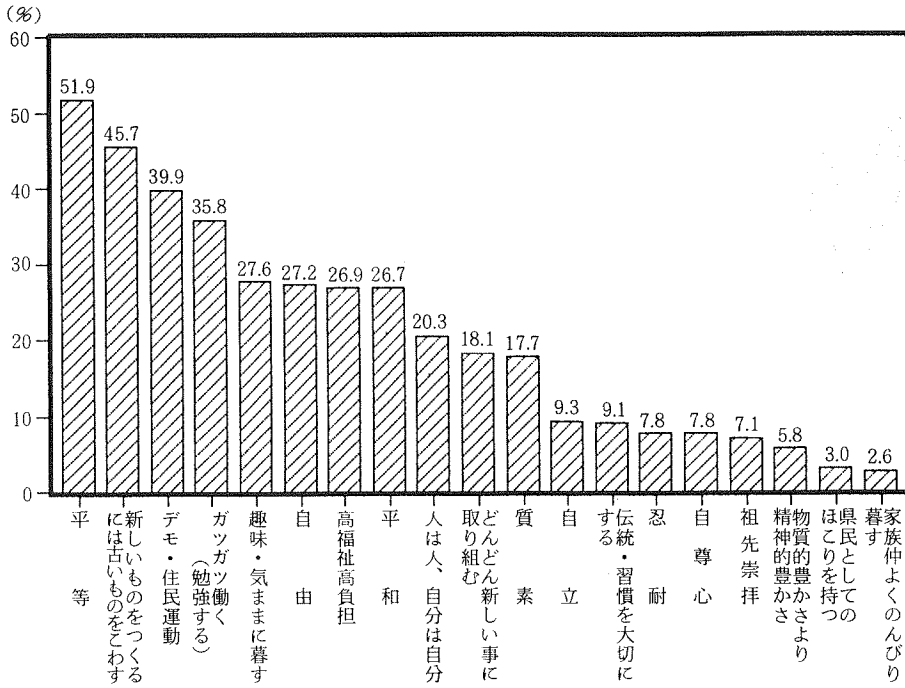
③ (30~39)



④ (40~49)



⑤ (50~59)



⑥ (60~70)

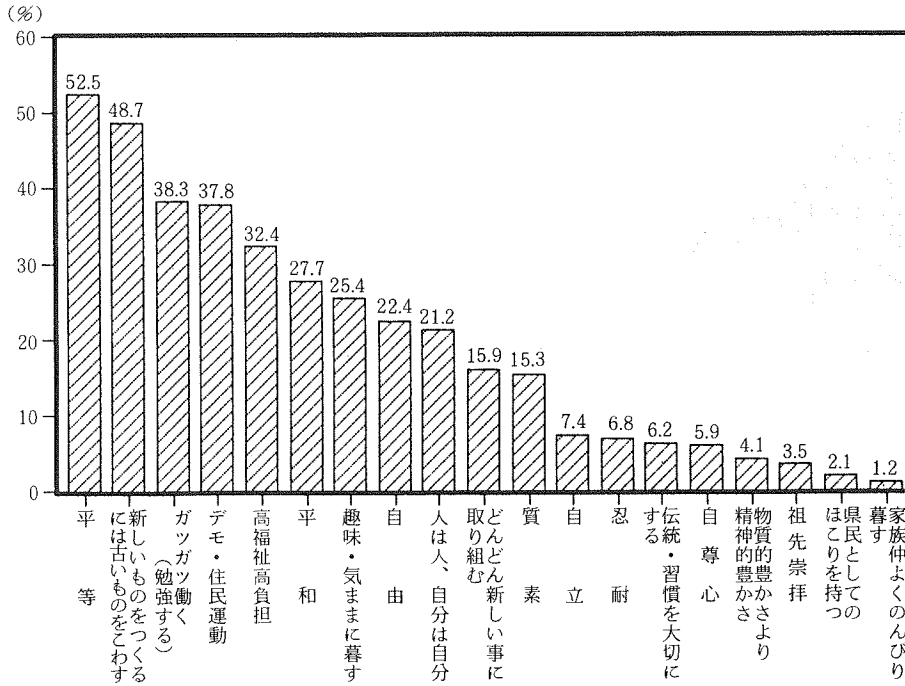


図5-3-13 「そう思わない」についての年齢階級別比較（計）

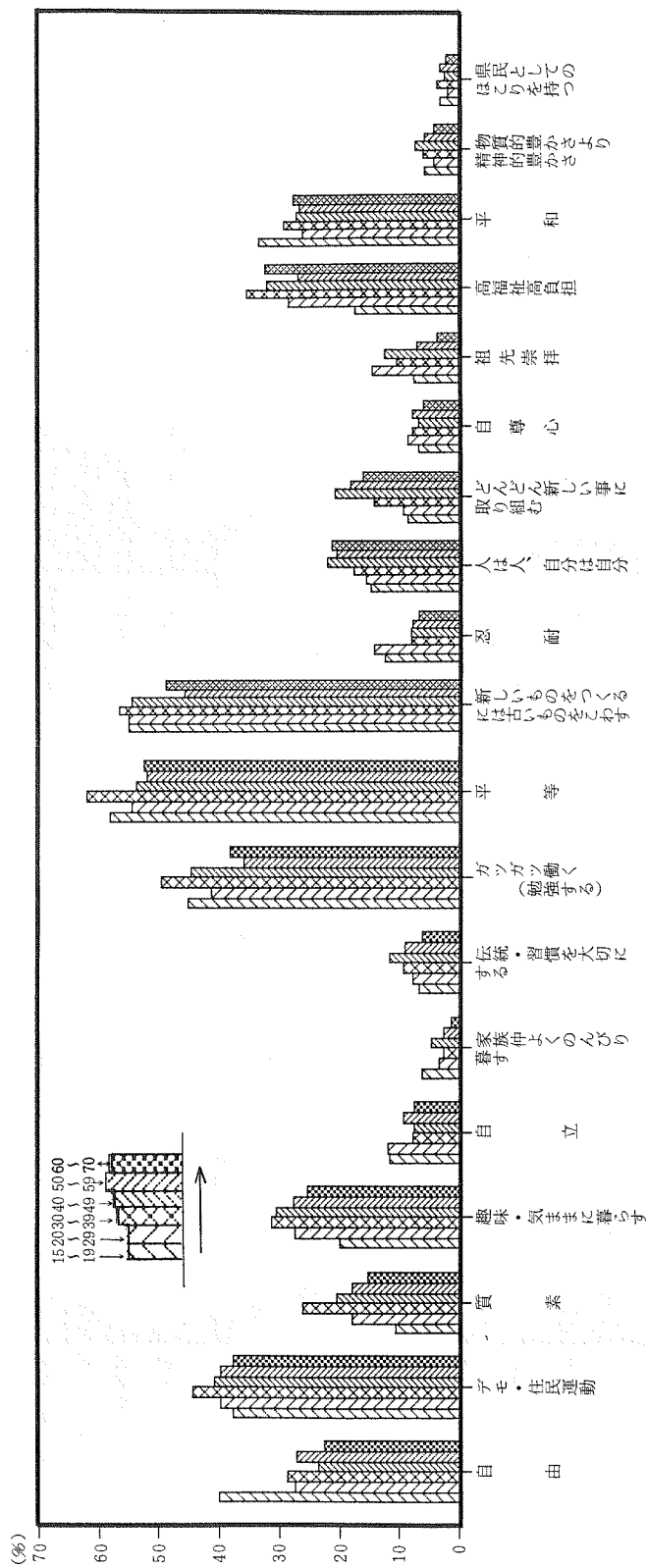
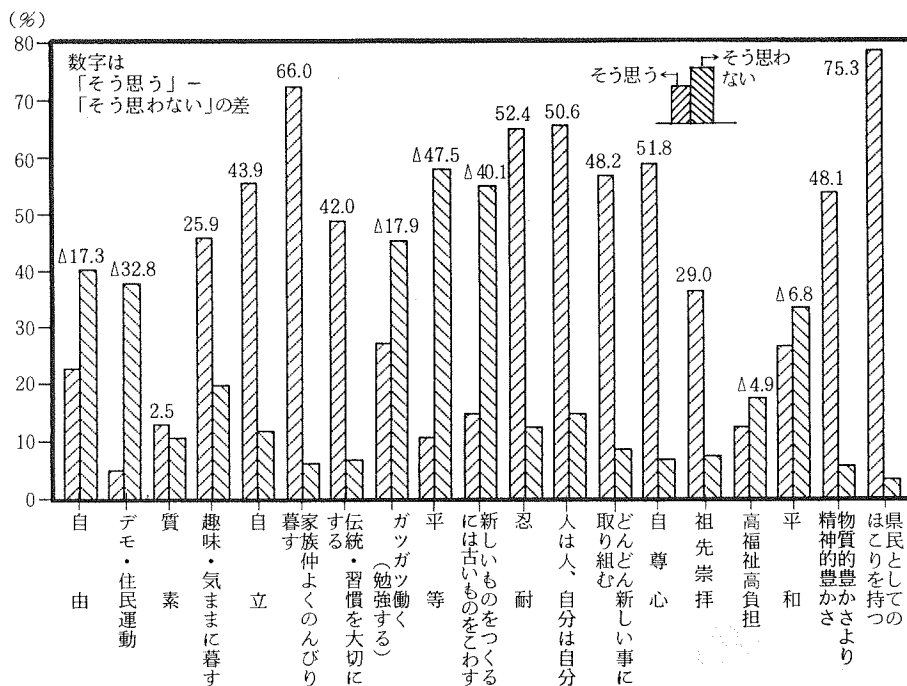
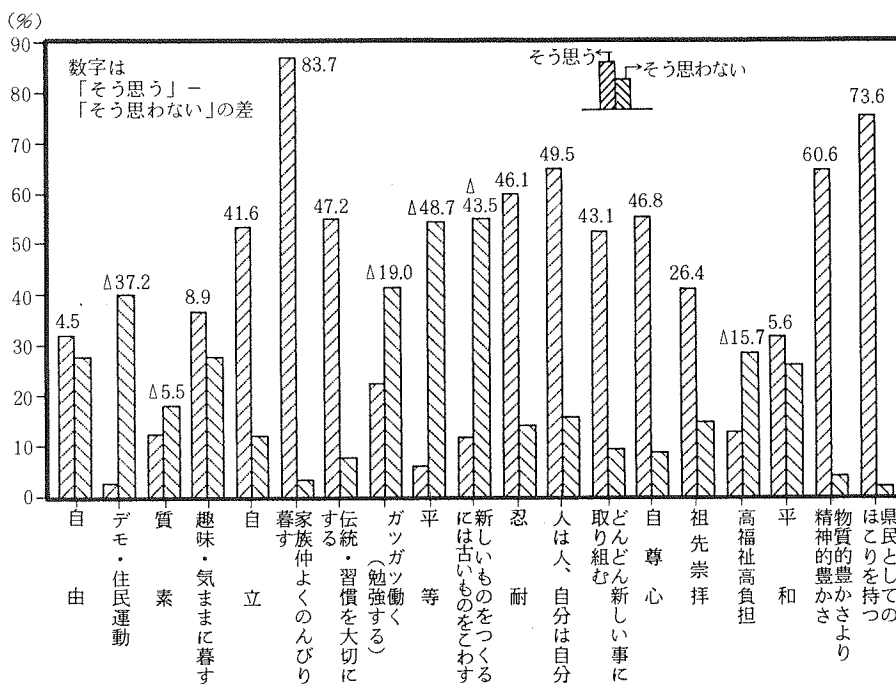


図5-3-14 「そう思う」、「そう思わない」の比較、(年齢階級別)

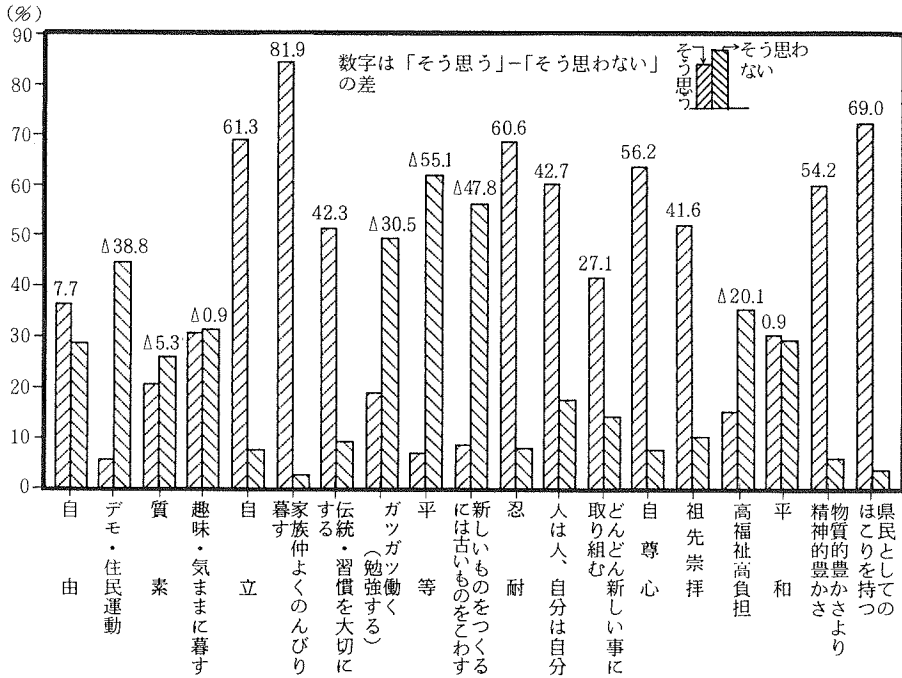
① (15~19)



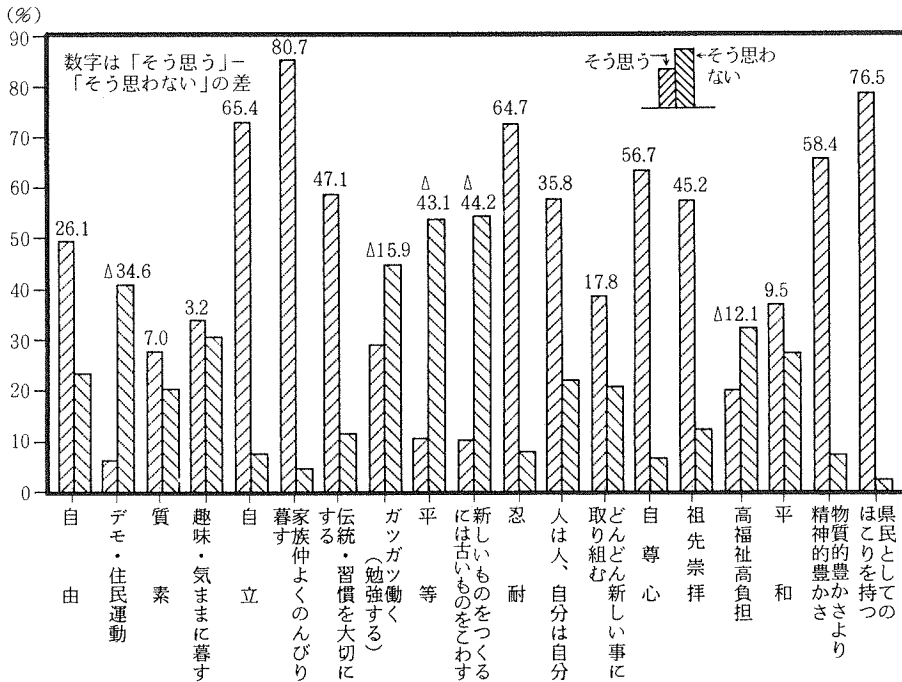
② (20~29)



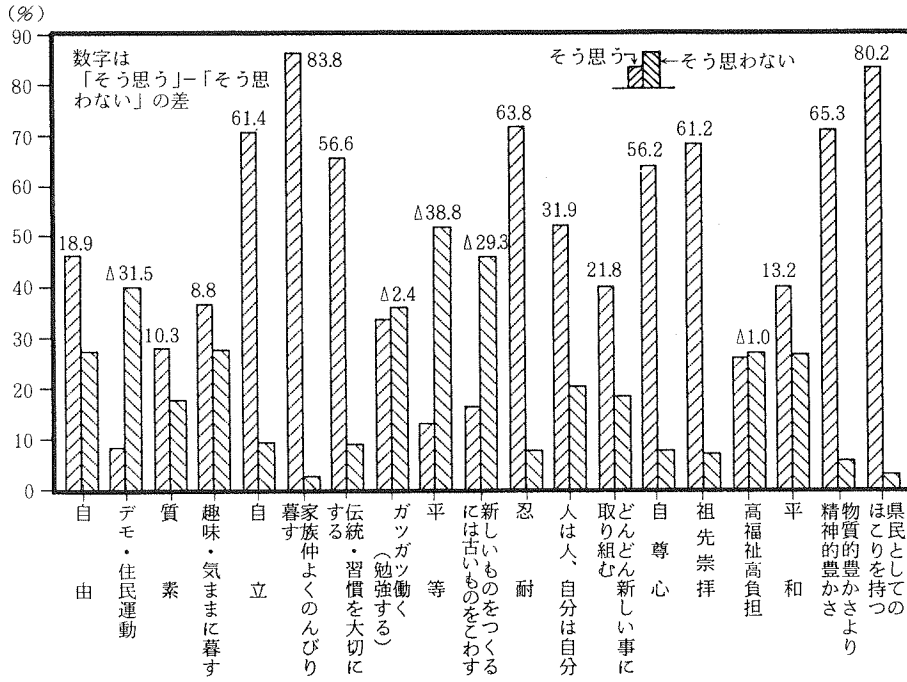
③ (30~39)



④ (40~49)



⑤ (50~59)



⑥ (60~70)

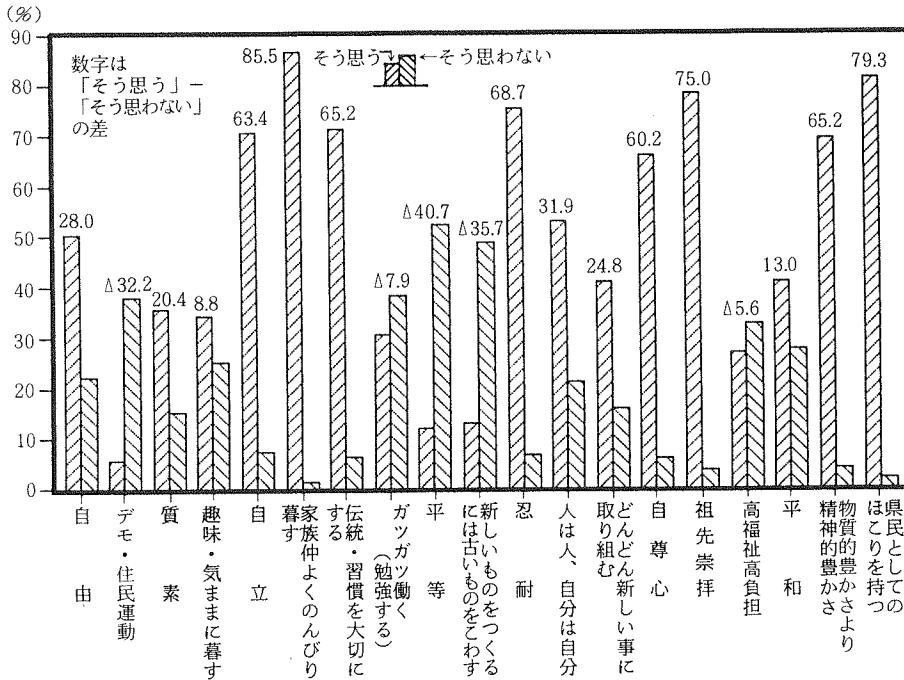


表5-3-1

「そう思う」－「そう思わない」の差（プラス、マイナス一覧表）

項目 \ 年齢区分	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～70
自由	－	＋	＋	＋	＋	＋
デモ・住民運動	－	－	－	－	－	－
質素は美德	＋	－	－	＋	＋	＋
趣味・気ままに暮らす	＋	＋	－	＋	＋	＋
自立	＋	＋	＋	＋	＋	＋
家族仲よくのんびり暮らす	＋	＋	＋	＋	＋	＋
伝統・習慣を大切に する	＋	＋	＋	＋	＋	＋
ガツガツ働く（勉強 する）	－	－	－	－	－	－
平等	－	－	－	－	－	－
新しいものをつくるに は古いものをこわす	－	－	－	－	－	－
忍耐	＋	＋	＋	＋	＋	＋
人は人、自分は自分	＋	＋	＋	＋	＋	＋
どんどん新しい事に 取り組む	＋	＋	＋	＋	＋	＋
自尊心	＋	＋	＋	＋	＋	＋
祖先崇拜	＋	＋	＋	＋	＋	＋
高福祉高負担	－	－	－	－	－	－
平和	－	＋	＋	＋	＋	＋
物質的豊かさより精 神的豊かさ	＋	＋	＋	＋	＋	＋
県民としてのほこり を持ちたい	＋	＋	＋	＋	＋	＋
「＋」の数（計）	12	13	12	14	14	14

表5-3-2 生活価値観の集計表

① 男女別

(単位: %)

項目	男女計					男					女				
	そう 思う	そう 思わ ない	どちら もい えない	わか らな い	無回 答	そう 思う	そう 思わ ない	どちら もい えない	わか らな い	無回 答	そう 思う	そう 思わ ない	どちら もい えない	わか らな い	無回 答
自由	41.6	27.1	25.6	4.6	1.1	41.4	27.5	25.9	4.4	0.8	41.8	26.7	25.3	4.9	1.4
デモ・住民運動	5.9	40.6	32.3	20.2	1.1	6.9	40.5	33.4	18.2	1	4.9	41.1	31.2	21.8	1
質素は美德	24.1	19.3	34.4	20.5	1.8	24.5	19	34.9	19.9	1.6	23.7	19.7	33.7	21.1	1.8
趣味、気ままに暮らす	34.7	28.3	28.5	7.2	1.4	38.5	26.4	26.5	7.4	1.3	31.3	30.1	30.3	6.8	1.5
自立	67.7	8.7	18	4.5	1.1	71.7	7.6	15.6	4.2	0.8	63.9	9.6	20.3	4.9	1.3
家族、のんびり暮らす	84.7	3.2	7.7	3.1	1.4	82.7	3.4	8.6	3.8	1.5	86.8	2.9	6.6	2.6	1.1
伝統、習慣大切に	59.3	8.9	26.4	4.2	1.2	58.2	10.1	26.3	4.6	0.8	60.5	7.7	26.6	3.7	1.4
ガツガツ働く	26.8	42.7	23.1	6.2	1.2	27.9	42.6	24	4.9	0.7	26	42.8	22.3	7.4	1.5
平等	9.8	55.6	25.4	7.2	1.9	9.7	57.2	24.7	6.9	1.6	10.1	54.3	25.8	7.7	2.1
新しいものをつくる	12.2	52.3	23	11.3	1.2	12.6	50.7	25.4	10.4	0.9	11.9	54	20.7	12.1	1.4
忍耐	69.8	8.8	14.3	5.6	1.4	67.2	10.1	16.4	5.4	0.9	72.5	7.5	12.3	5.8	1.9
人は人、自分は自分	58	19.1	17.1	4.6	1.4	57.9	21	15.8	4.1	1.2	58.1	17.5	18.2	4.9	1.4
新しいことに取り組む	42.9	15.5	31.5	9	1.1	47.2	14.7	29.6	7.8	0.7	39.2	16.3	33.1	10.1	1.4
自尊心	62.8	7.2	20	8.3	1.8	63.6	7.9	20.5	7	1	62.3	6.7	19.3	9.4	2.3
祖先崇拜	57.8	9.4	21.2	10.4	1.2	57.2	9.7	23.4	9	0.8	58.5	9.3	18.8	11.9	1.5
高福祉高負担	19.8	30.3	28.3	19.7	1.9	20.8	31.8	29.3	16.8	1.3	18.7	29.2	27.3	22.3	2.5
平和	35.4	27.8	29.2	6.1	1.6	35.1	28.8	29.2	5.5	1.4	35.2	26.9	29.5	6.6	1.7
精神的豊かさ	65	5.6	22.7	5.5	1.2	62.4	6.7	24.5	5.5	0.9	67.5	4.6	20.9	5.6	1.4
県民のほこり	78	2.7	12.5	5.8	1	77.7	2.9	13.4	5.1	0.9	78.6	2.4	11.6	6.5	1

② 年齢階級別

(単位: %)

項目	15~19					20~29					30~39				
	そう 思う	そう 思わ ない	どちら もい えない	わか らな い	無回 答	そう 思う	そう 思わ ない	どちら もい えない	わか らな い	無回 答	そう 思う	そう 思わ ない	どちら もい えない	わか らな い	無回 答
自由	22.8	40.1	29.6	6.8	0.6	32	27.5	34.9	5.2	0.4	36.3	28.6	29.3	4.4	1.5
デモ・住民運動	4.9	37.7	25.9	31.5	0	2.6	39.8	36.8	20.4	0.4	5.7	44.5	33.7	15.6	0.5
質素は美德	13	10.5	36.4	38.9	1.2	12.3	17.8	43.9	25.3	0.7	20.7	26	36.6	15.6	1.1
趣味、気ままに暮らす	45.7	19.8	27.2	7.4	0	36.4	27.5	27.1	8.9	0	30.4	31.3	31	5.9	1.5
自立	55.6	11.7	21.6	10.5	0.6	53.5	11.9	26.8	7.1	0.7	69	7.7	19.4	2.7	1.1
家族、のんびり暮らす	72.2	6.2	13.6	8	0	87	3.3	7.1	2.2	0.4	84.6	2.7	8.1	2.9	1.6
伝統、習慣大切に	48.8	6.8	34.6	8	1.9	55	7.8	30.5	6.3	0.4	51.6	9.3	33.7	4.4	0.9
ガツガツ働く	27.2	45.1	17.9	9.3	0.6	22.3	41.3	31.2	5.2	0	19	49.5	26.7	4.2	0.5
平等	10.5	58	21.6	8.6	1.2	5.9	54.6	30.5	8.6	0.4	7	62.1	25.5	4.6	0.9
新しいものをつくる	14.8	54.9	19.8	10.5	0	11.5	55	22.7	9.7	1.1	8.8	56.6	24.4	9.7	0.5
忍耐	64.8	12.4	11.1	11.1	0.6	60.2	14.1	19.3	5.9	0.4	68.7	8.1	17.8	4.4	1.1
人は人、自分は自分	65.4	14.8	11.1	8.6	0	65.1	15.6	13.4	5.2	0.7	60.3	17.6	17	3.8	1.3
新しいことに取り組む	56.8	8.6	25.9	8.6	0	52.4	9.3	30.9	7.1	0.4	41.4	14.3	36.3	7.3	0.7
自尊心	58.6	6.8	19.8	14.2	0.6	55.4	8.6	21.6	13.4	1.1	63.9	7.7	20.5	6	1.8
祖先崇拜	36.4	7.4	27.2	27.8	1.2	40.9	14.5	25.7	17.8	1.1	52	10.4	25.1	11.7	0.7
高福祉高負担	12.4	17.3	30.3	38.9	1.2	12.6	28.3	30.1	26.8	2.2	15.2	35.3	29.9	18.1	1.5
平和	26.5	33.3	29	10.5	0.6	31.6	26	34.6	5.6	2.2	30.2	29.3	30.4	9	1.1
精神的豊かさ	53.7	5.6	29	11.7	0	64.7	4.1	21.6	7.8	1.9	60.1	5.9	28.8	4.6	0.7
県民のほこり	78.4	3.1	9.3	9.3	0	75.5	1.9	13.4	8.2	1.1	72.5	3.5	16.3	7	0.7

	40～49					50～59					60以上				
	そ う 思 う	そ う 思 わ な い	ど ち ら も い え な い	わ か ら な い	無 回 答	そ う 思 う	そ う 思 わ な い	ど ち ら も い え な い	わ か ら な い	無 回 答	そ う 思 う	そ う 思 わ な い	ど ち ら も い え な い	わ か ら な い	無 回 答
自由	49.5	23.4	22.7	4	0.4	46.1	27.2	22	3.7	1.1	50.4	22.4	18.9	5.9	2.4
デモ・住民運動	6.2	40.8	36.1	16.1	0.8	8.4	39.9	30.8	19.4	1.5	5.6	37.8	25.7	28.6	2.4
質素は美德	27.4	20.4	35	16.1	1.1	28	17.7	30.2	22	2.2	35.7	15.3	25.4	19.8	3.8
趣味、気ままに暮らす	33.8	30.6	29.3	5.5	0.8	36.4	27.6	26.7	7.5	1.7	34.2	25.4	28.3	9.1	2.9
自立	73	7.6	15.7	3	0.6	70.7	9.3	15.1	3.9	1.1	70.8	7.4	14.5	5.3	2.1
家族、のんびり暮らす	85.4	4.7	6.8	2.8	0.4	86.4	2.6	6.5	3	1.5	86.7	1.2	6.8	2.4	2.9
伝統、習慣大切に	58.8	11.7	27.4	1.7	0.4	65.7	9.1	19.6	3.9	1.7	71.4	6.2	15.9	4.1	2.4
ガツガツ働く	28.9	44.8	19.5	6.4	0.4	33.4	35.8	22.4	6.3	2.2	30.4	38.3	19.8	8.8	2.7
平等	10.6	53.7	26.3	6.8	2.5	13.1	51.9	24.6	8.4	1.9	11.8	52.5	22.7	9.1	3.8
新しいものをつくる	10.4	54.6	24	10.2	0.8	16.4	45.7	23.3	12.9	1.7	13	48.7	20.6	15.3	2.4
忍耐	72.8	8.1	13.4	5.3	0.4	71.6	7.8	12.7	5.8	2.2	75.5	6.8	9.4	4.7	3.5
人は人、自分は自分	57.7	21.9	16.8	3.4	0.2	52.2	20.3	20.5	5	2.2	53.1	21.2	18.3	4.7	2.7
新しいことに取り組む	38.4	20.6	32.3	8.1	0.6	39.9	18.1	31.7	8.8	1.5	40.7	15.9	25.7	15	2.7
自尊心	63.5	6.8	21	7.6	1.1	64	7.8	18.5	7.1	2.6	66.1	5.9	18.3	7.7	2.1
祖先崇拜	57.5	12.3	23.4	6.2	0.6	68.3	7.1	16.8	6	1.7	78.5	3.5	10	6.5	1.5
高福祉高負担	20	32.1	29.9	16.6	1.5	25.9	26.9	29.3	15.5	2.4	26.8	32.4	19.8	18.3	2.7
平和	36.7	27.2	30.4	4.9	0.8	39.9	26.7	27.4	4.1	1.9	40.7	27.7	24.2	4.7	2.7
精神的豊かさ	65.6	7.2	22.1	4	1.1	71.1	5.8	17.2	4.5	1.3	69.3	4.1	18.6	6.2	1.8
県民のほこり	78.8	2.3	13.6	4.9	0.4	83.2	3	9.5	3.2	1.1	81.4	2.1	9.1	5.3	2.1

4 定住の意向

(1) 時系列と男女別でみた定住意向

県民の定住意向について、その考え方を4区分で聞いてみた。

その結果は、いつまでも今住んでいるところに住みたいという「永住志向型」が、38.9%と最も多く、次いで、特に住みつけたいほどではないが他所へ移る気もないという「現在地居住志向型」25.6%、何時かは移りたいという「潜在的移転志向型」22.4%、できれば今すぐにも他所へ移りたいという「即移転志向型」5.8%となっており、「永住志向型」と「現在地居住志向型」を「定住型」、「潜在的移転志向型」と「即移転型」を「移転型」とすれば前者が64.5%、後者が28.2%となり、その割合は約2対1と3人に1人は移転の志向を持っていることになる。

これらのことを、前回(59年1月調査)と前々回(54年12月調査)調査との比較でみると、「永住志向型」が32.9%(前々回)、35.6%(前回)、38.9%(今回)と回毎に増加をみせ、今回は前回は3.3ポイント上回っている。また、「現在地居住志向型」では、前回の27.5%が、前々回の25.9%を上回ったものの、今回は25.6%と前回は1.9ポイント下回って減少となっている。一方、「潜在的移転志向型」と「即移転志向型」は、回毎に減少をみせ、それぞれ前回より2.3ポイント、0.8ポイントの低下となっている。このことは、「定住型」が58.8%(前々回)から63.1%(前回)、64.5%(今回)へと高まる反面、「移転型」は、32.3%(前々回)から、31.3%(前回)、28.2%(今回)へと低下傾向にあることを示すものであり、定住化をより一層望む意向の現れであるといえよう。なお、定住志向の中でも「永住型」はより強い意向を示すなど特徴的である。

次に、男女別にみると、「永住志向型」について、男子が女子を2.1ポイント、「現在地居住志向型」と「即移転志向型」については、女子が男子をそれぞれ1.3ポイント、0.3ポイント上回るなど、若干の差があるものの、順位的には全体(1位永住、2位あえて移転、3位何時かは移転)と同様な傾向である。また、時系列でみると、「永住志向型」は、前々回で女子が上回り、前回では両者一致、今回は男子が女子を上回るなど、変化がみられ、「現在地居住志向型」については、前回、前々回とも男子が女子を上回ったが、今回は女子が上回るなどその見方に逆転がみられた。さらに、「即移転志向型」については、男女とも水準的にはかなり低い志向となっているが、前回は除いて、女子が男子を上回っている。一方、「潜在的移転志向型」については、前回は女子、前々回は男子が上回るなどその差がみられたが、今回は、両者とも同程度の見方となっている。このような変化を、「定住型」と「移転型」としてみると、「定住型」では毎回男子(前々回58.9%、前回63.5%、今回65.0%)が女子(前々回58.7%、前回62.6%、今回64.2%)を上回るかたちで、男女とも増加し、逆に、「移転型」については、女子(前々回32.5%、前回31.5%、今回28.5%)が男子(前々回32.1%、前回31.1%、今回28.2%)を上回るかたちで、両者とも減少するなど、男女間に程度の差はあるものの、定住化への意向が強まってきている。

図5-4-1 調査時点別にみた定住の意向（男女計）

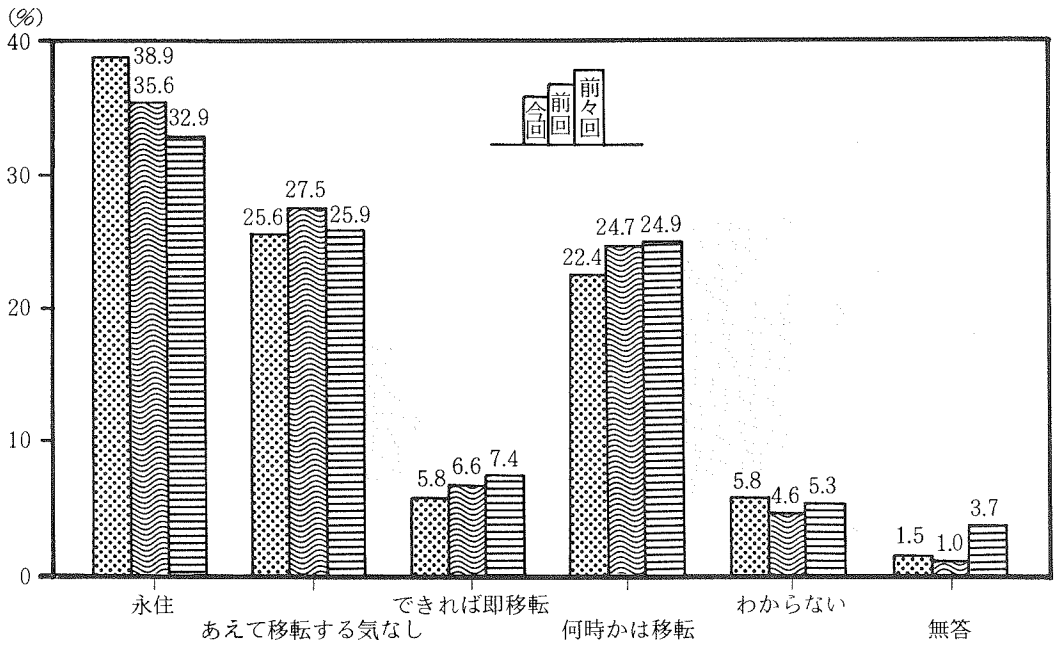


図5-4-2 調査時点別にみた定住の意向（男）

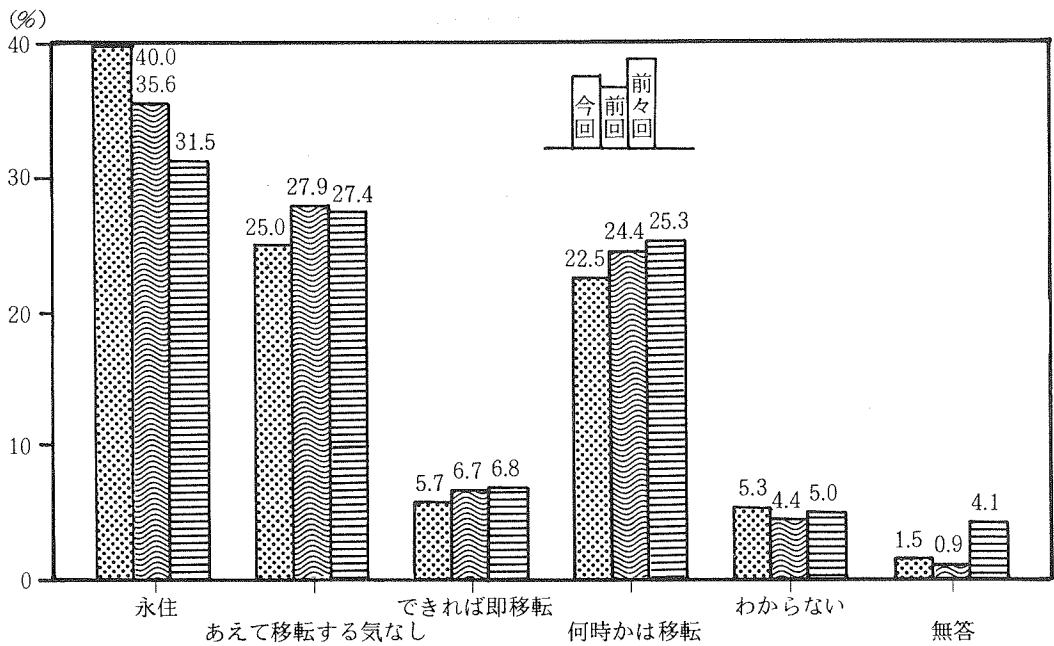
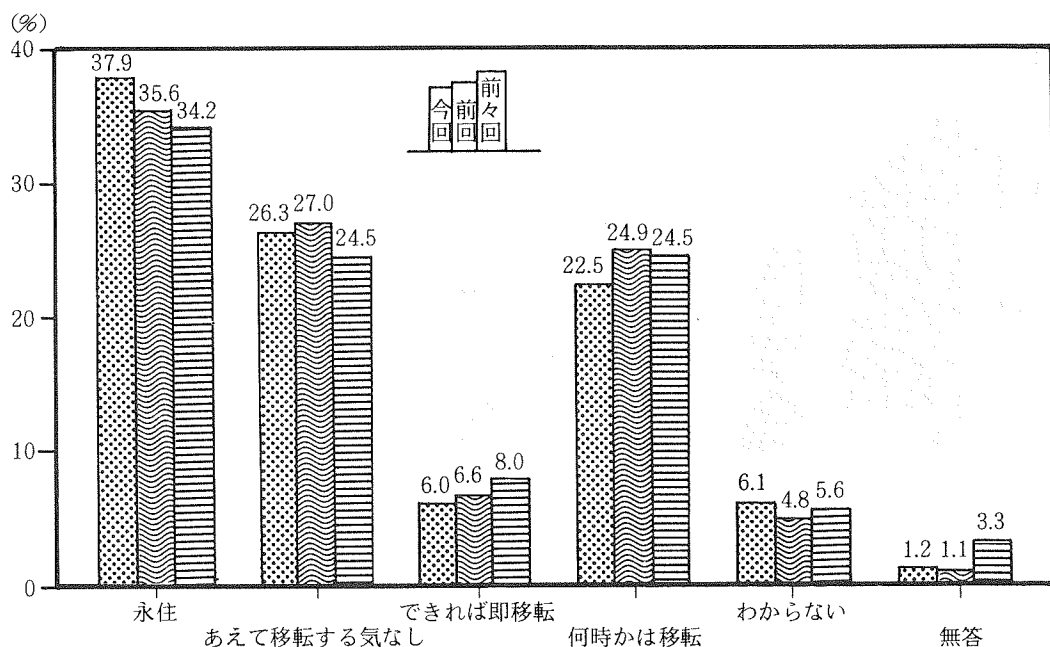


図5-4-3 調査時点別にみた定住の意向（女）



(2) 年齢階級別にみた定住意向

次に、年齢別にみると、10代と30代が「潜在的移転志向型」（10代33.3%、30代32.1%）、20代、40代、50代、60才以上が「永住志向型」（20代29.4%、40代34.4%、50代51.1%、60才以上67.1%）となっており、特に、高年代の50代以上は5割をこすなど強い永住志向である。これらの動きを「定住型」ととらえてみると、各年代で定住志向を示しているが、その度合いでみると、5割以上の志向を示したのは、20代以上となっており、特に60才以上が82.7%を示すなど、その意向が最も強い。一方、「移転型」でみると、30代と10代が際立ち、中でも30代の42.2%が最も高い状況にある。これは社会的に独立しながらも、仕事等他の要因で現住地が必ずしも満足する場所ではないようである。

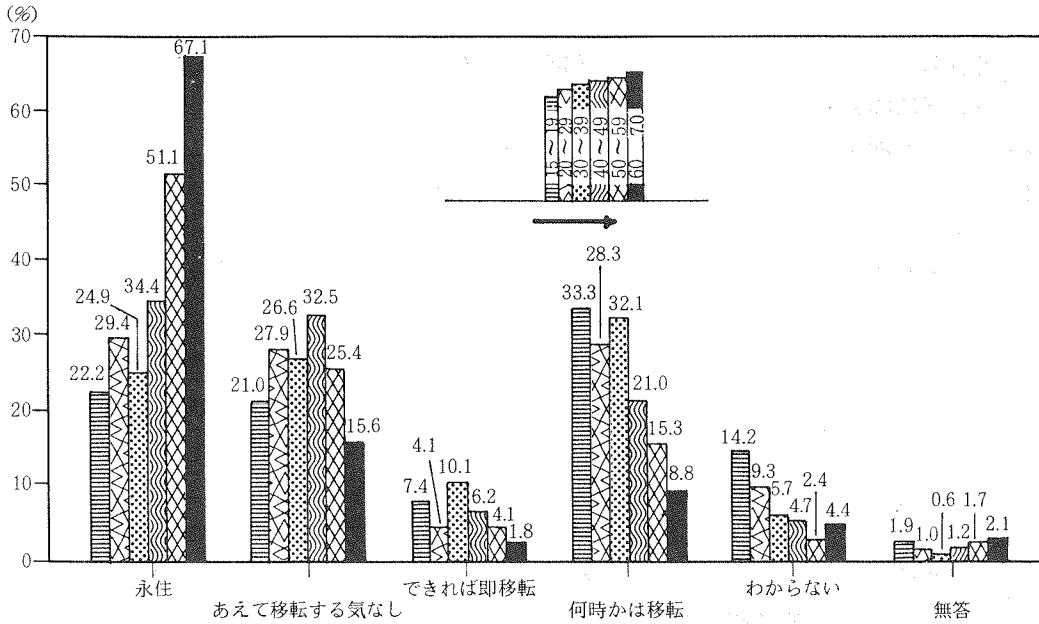
また、前回及び前々回の調査と比べてみると、まず、10代について「潜在的移転志向型」が前回の5.3ポイント低下に対し、今回は6.9ポイント上昇と水準的には今までの中で最高を示し、「即移転志向型」についても、前回の2.2ポイント低下が今回は上昇に転じ前々回の水準に戻るなど、いわゆる「移転型」の増加となった。一方、「現住地移住志向型」が前回の3.0ポイント低下につづき、今回も8.6ポイント低下と大幅な減少をみせ、さらに、「永住志向型」についても、前々回より水準的には高いものの、前回より2.5ポイント低下するなど「定住型」の意向が減少した。その結果、定住型と移住型の割合は、前々回の44.9対39.7から前回は54.3対32.2、今回は43.2対40.7へと変化し、定住型志向が相対的に高いとはいえ、その度合いが徐々に弱まってきている。20代については、「潜在的移転志向型」が前回0.3ポイント上昇したが今回は3.7ポイント低下、「即移転志向型」が前回△1.8ポイント、今回△4.3ポイントと連続低下をみせ、「移転型」が減少した。一方、「現住地居

住志向型」が前回3.3ポイント上昇、今回2.0ポイント低下と水準的に若干落ち込みはあったものの、「永住志向型」が前回の0.3ポイント上昇を大幅に上回って7.9ポイント上昇となったため、「定住型」が強い状況にある。30代については、「永住志向型」が前回2.8ポイント低下、今回0.8ポイント上昇したのに対し、「現在地居住志向型」が前回3.3ポイント上昇、今回3.2ポイント低下したため、「定住型」としては前々回の53.4%から前回は53.9%、今回は51.5%へと徐々に意向が減少した。一方、「即移転志向型」が前回の1.0ポイント上昇、今回の0.1ポイント低下に対し、「潜在的移転志向型」が前回、今回とも0.5ポイント、1.4ポイントとそれぞれ上昇したため、「移転型」としては、前々回39.4%、前回40.9%、今回42.2%へとその割合は高まり、「定住型」と「移転型」の差は、14.0（前々回）、13.0（前回）、9.3（今回）と縮小してきており、依然として定住志向にはあるが、その度合いが弱まってきている状況である。40代については、「現在地居住志向型」が前回、今回とも1.7ポイント、5.1ポイント上昇したものの、「永住志向型」が前回の2.4ポイント上昇に対し、今回は6.7ポイントも大幅に低下したため、「定住型」としては、前々回の64.4%から前回68.5%に増加したものの、今回66.9%へと逆に減少した。一方、「潜在的移転志向型」と「即移転志向型」は、前回はそれぞれ1.8ポイント、0.2ポイント上昇したが、今回1.0ポイント、0.7ポイント低下したため、「移転型」は前々回の26.9%から、前回28.9%、今回27.2%へと減少した。その結果、定住志向は、「定住型」－「移転型」の差で見ると、前々回の37.5ポイントから前回39.6ポイント、今回の39.7ポイントへとその度合いが強くなってきている。最後に、50代についてみると、「永住志向型」、「現在地居住志向型」及び「潜在的移転志向型」が、前回それぞれ0.7ポイント、5.0ポイント、0.7ポイント上昇したが、今回は1.8ポイント、0.1ポイント、1.9ポイント低下しており、また、「即移転志向型」が前回1.9ポイント低下したのに対し、今回は1.7ポイント上昇となっている。このことから、「定住型」は、前々回の72.7%から前回の78.4%へ増加したものの、今回は逆に76.5%へと減少、また、「移転型」は前々回の20.8%から徐々に減少し、今回は19.4%となった。両者のポイント差をみると、前々回の51.9ポイントから前回は58.8ポイントと定住志向が高まったものの、今回は57.1ポイントへと減少をみせ、その志向度合いが若干低下した。しかし、他の年代に比べ、「定住型」－「移転型」の差がいずれの調査においても、5割をこえるなど、依然として強い定住志向となっている。

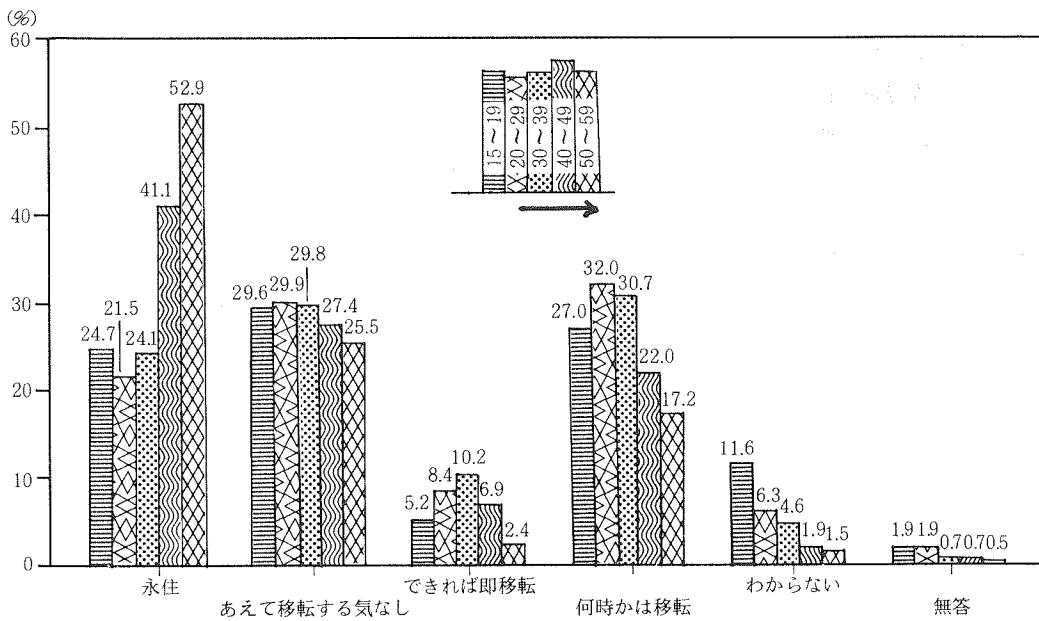
以上のように、これら3回に渡る調査において、年代により若干の意向の差はあるものの、全体的には「定住型」の志向が強く、その度合いも高年代ほど高いようである。

図5-4-4 年齢階級別にみた定住の意向

① 今回



② 前回



③ 前々回

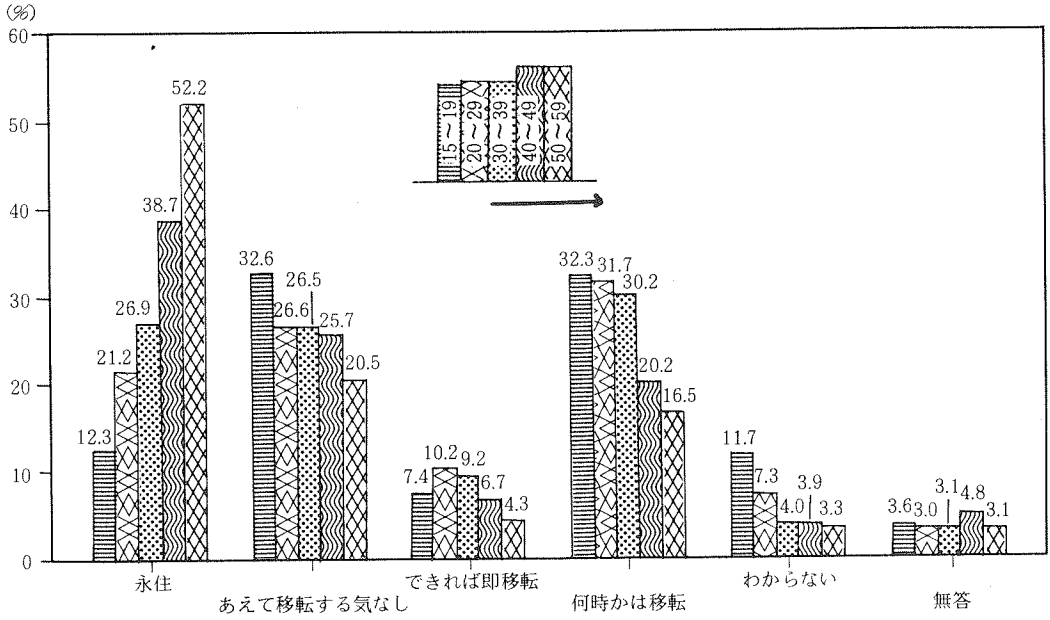
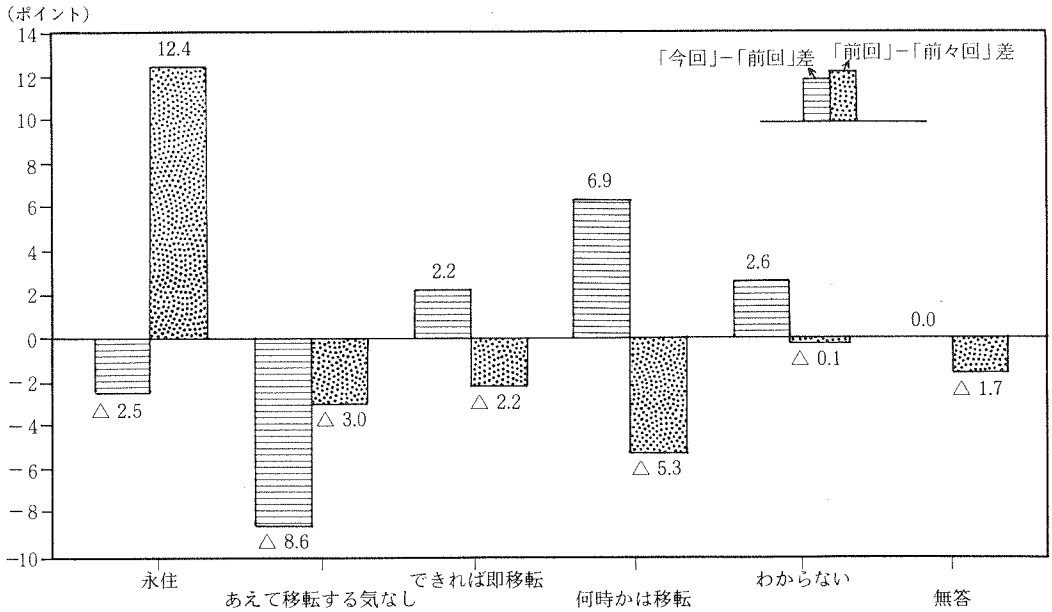
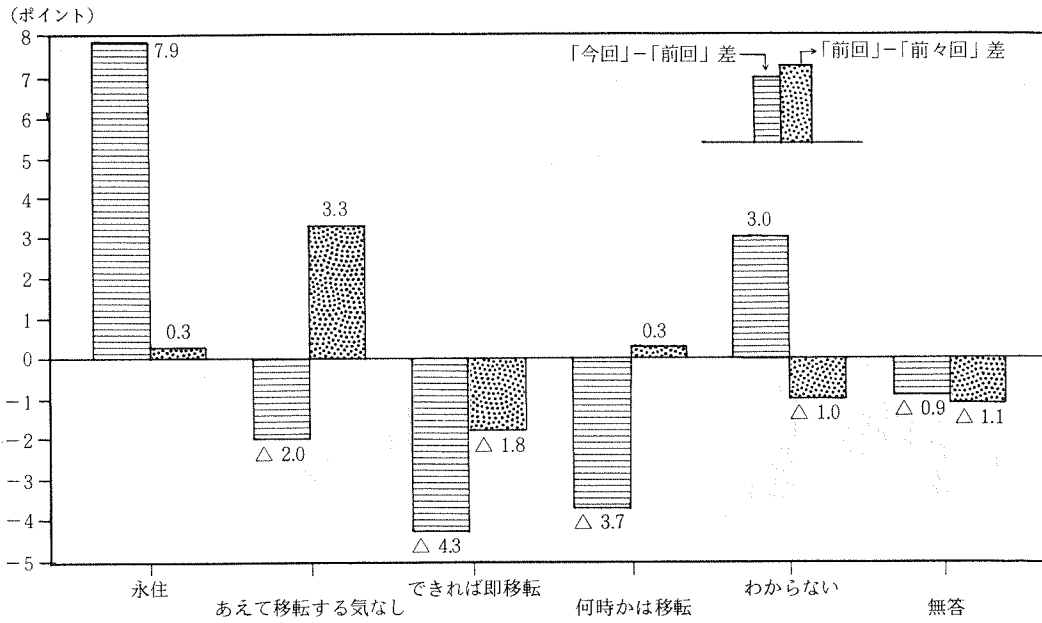


図5-4-5 定住意向についての調査間のポイント差(年齢階級別)

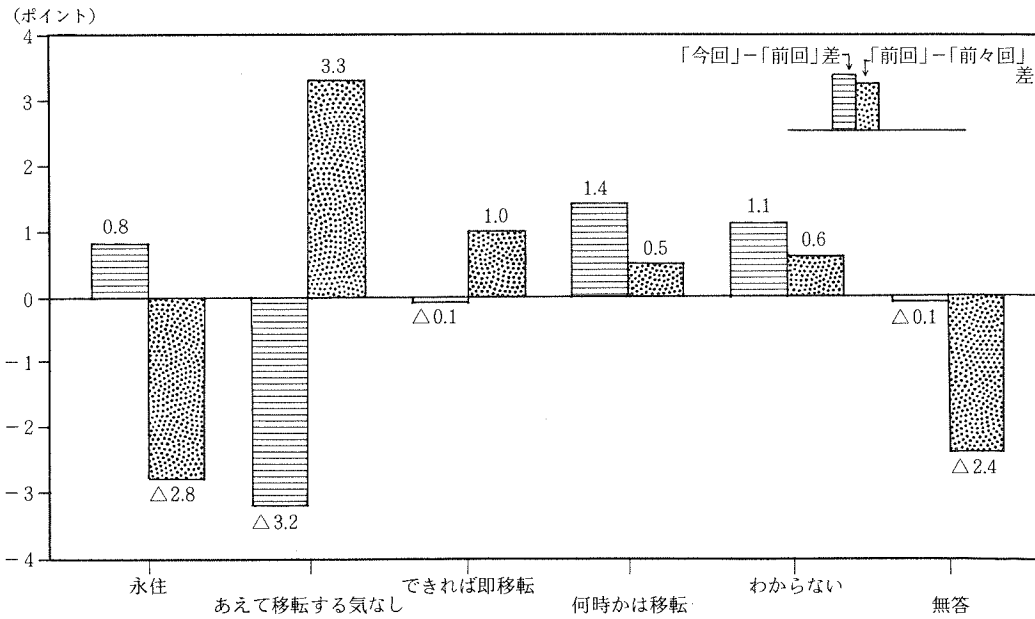
① 15~19歳



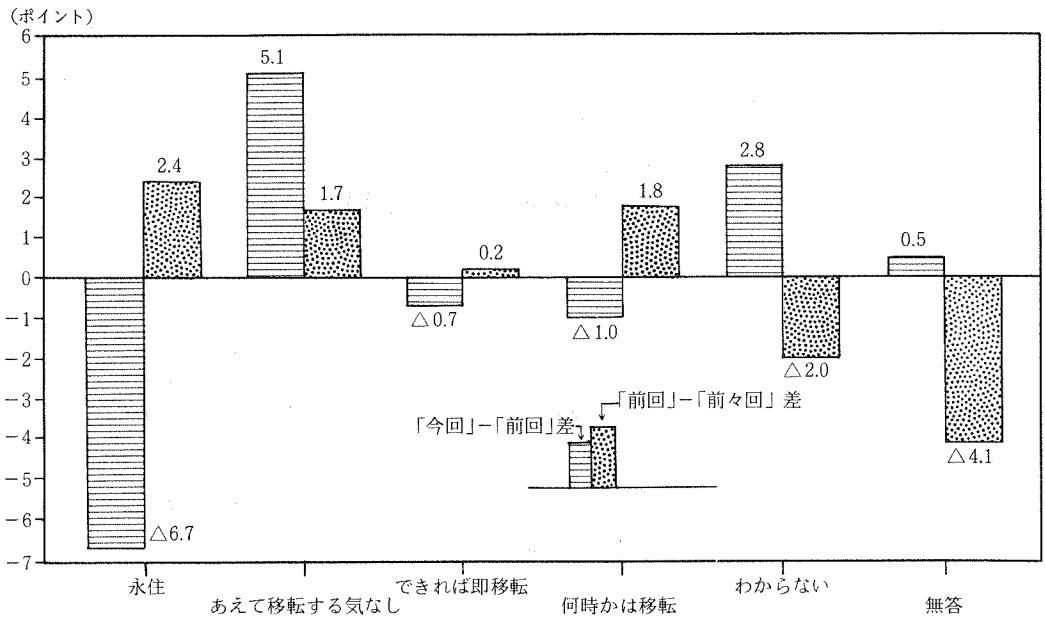
② 20～29歳



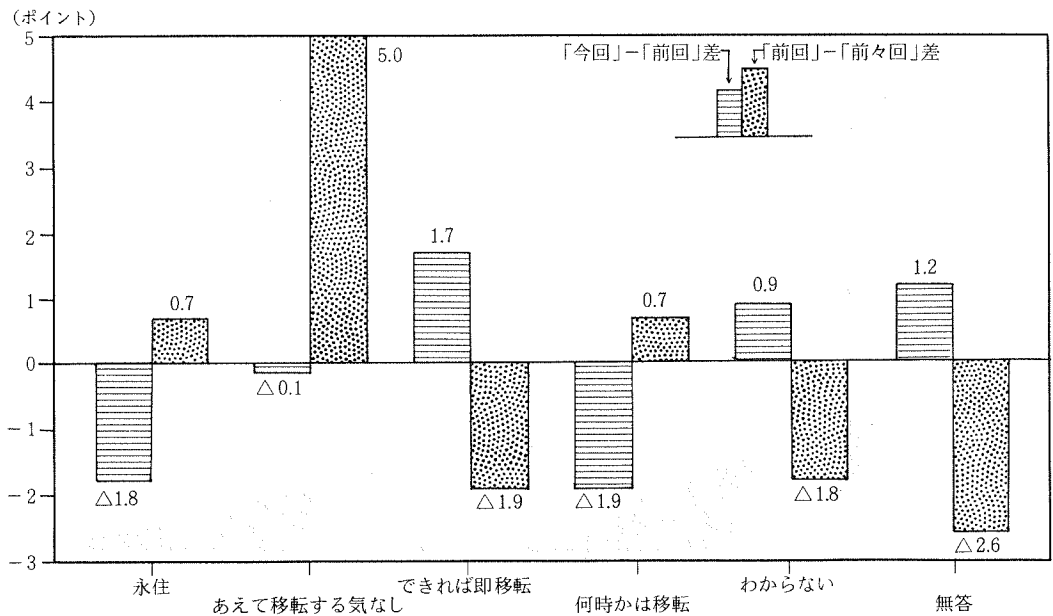
③ 30～39歳



④ 40～49歳



⑤ 50～59歳



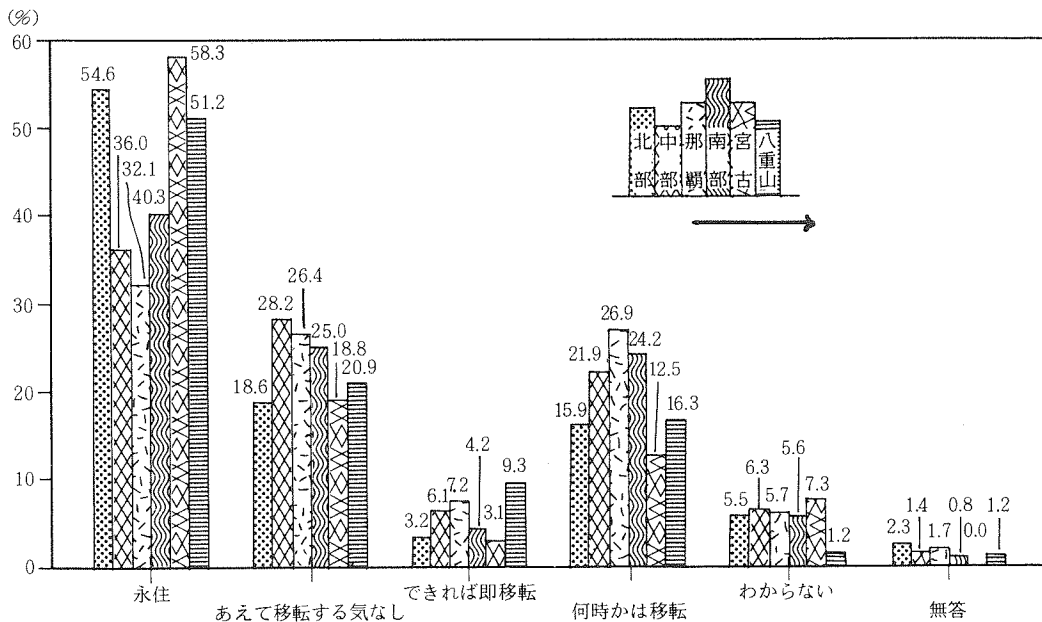
(3) 地域別にみた定住意向

次に地域別にみると、全域とも「永住志向型」を第1位としているなか、宮古、北部、八重山地域がそれぞれ58.3%、54.6%、51.2%と志向度合いが高く、次いで、南部40.3%、中部36.0%、那覇32.1%となるなど、先島及び農村部でその意向は強いようである。また、那覇を除く他の地域が「現在地居住志向型」を第2位としているが、那覇は「潜在的移転居住型」を第2位としている。那覇において、「永続志向型」が32.1%、「現在地居住志向型」が26.4%、「潜在的移転志向型」が26.9%とこれら3種の志向が他の地域に比べ、それほど開きがないのは、都市部のもつ利便性とマイナス面の相互作用等によるものと思われる。

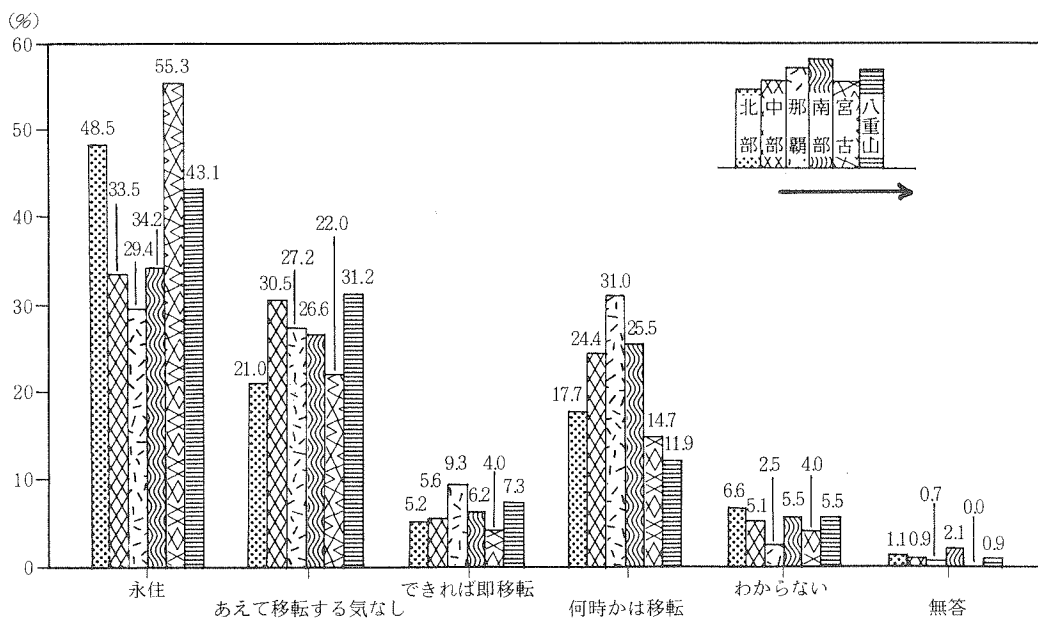
また、定住の意向を前々回と前回との比較でみると、「定住型」について、北部、中部と那覇のみが回を重ねるごとに上昇しており、他の地域は上昇から低下又はその逆の動きがみられる。一方、「移転型」については、中部、那覇、宮古地域が回ごとに低下している状況にある。これらの動きを「定住型」－「移転型」の差でみると、那覇が前々回4.1ポイントだったのが前回16.3ポイント、今回24.4ポイントと、その差の変化が最も大きく、定住化傾向の志向が最も急激に変化しており、また、中部と宮古においてもその度合いは調査毎に増えてきている状況にある。とりわけ、宮古については、今回61.5ポイントの差があり、他地域に比べ際立って定住志向が強くなっている。

図5-4-6 地域別にみた定住の意向

① 今回



② 前回



③ 前々回

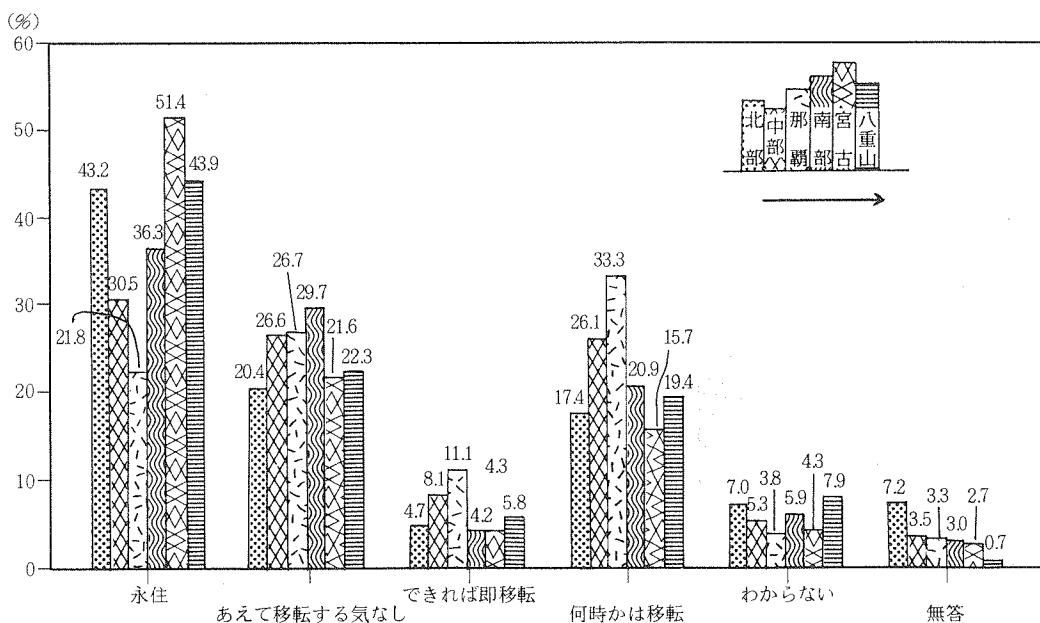
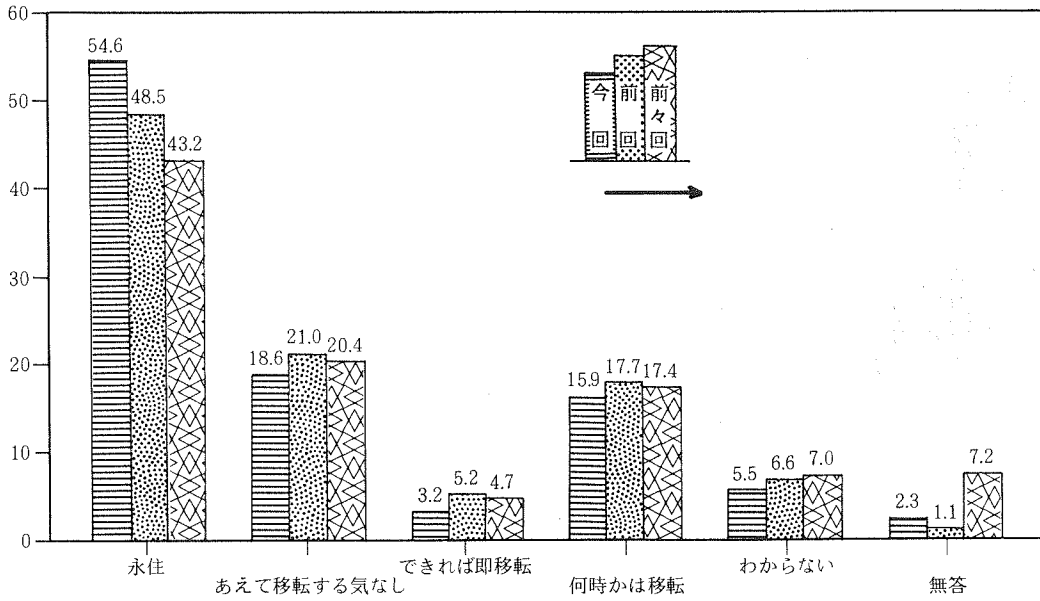
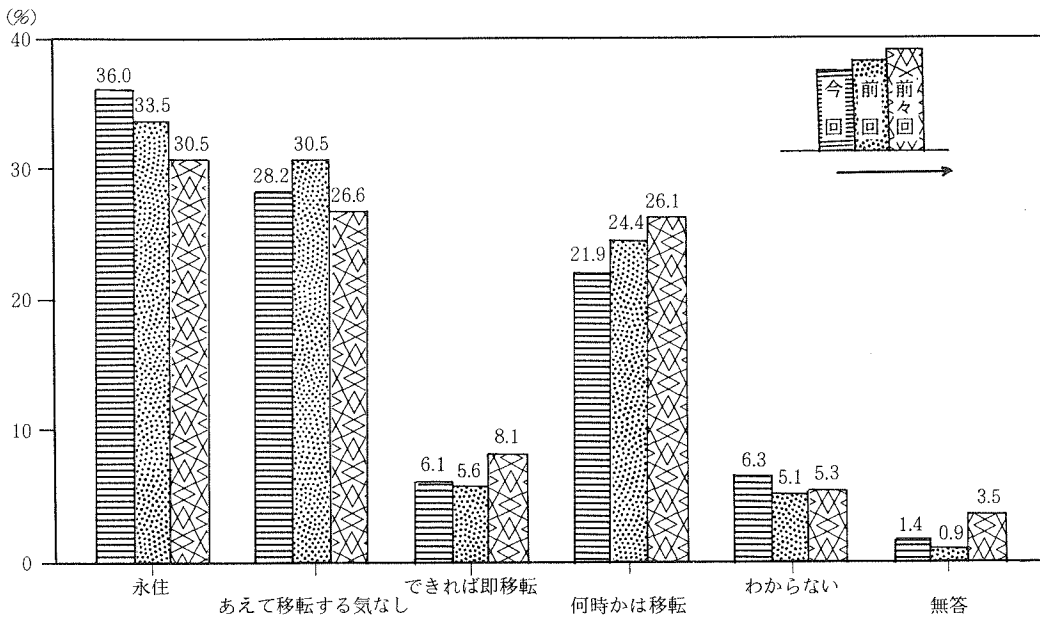


図5-4-7 調査時点別にみた定住の意向（地域別）

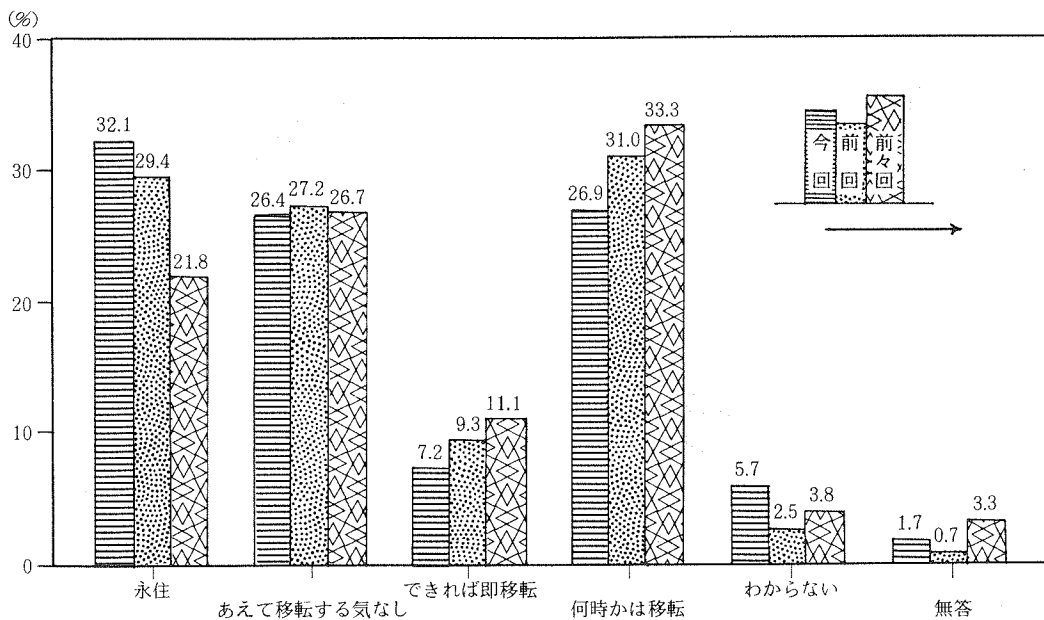
① 北部



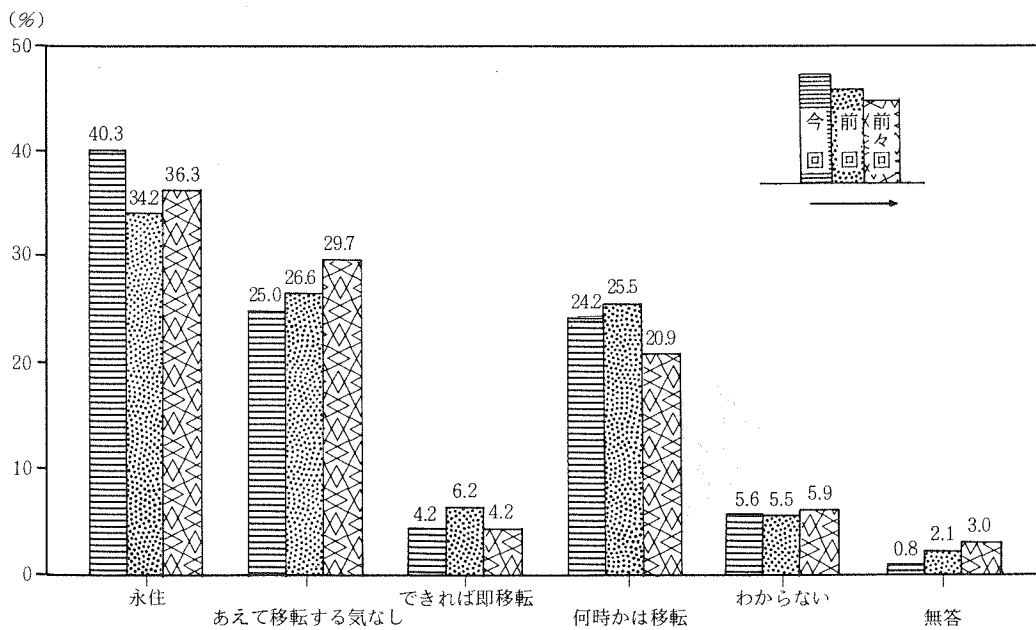
② 中部



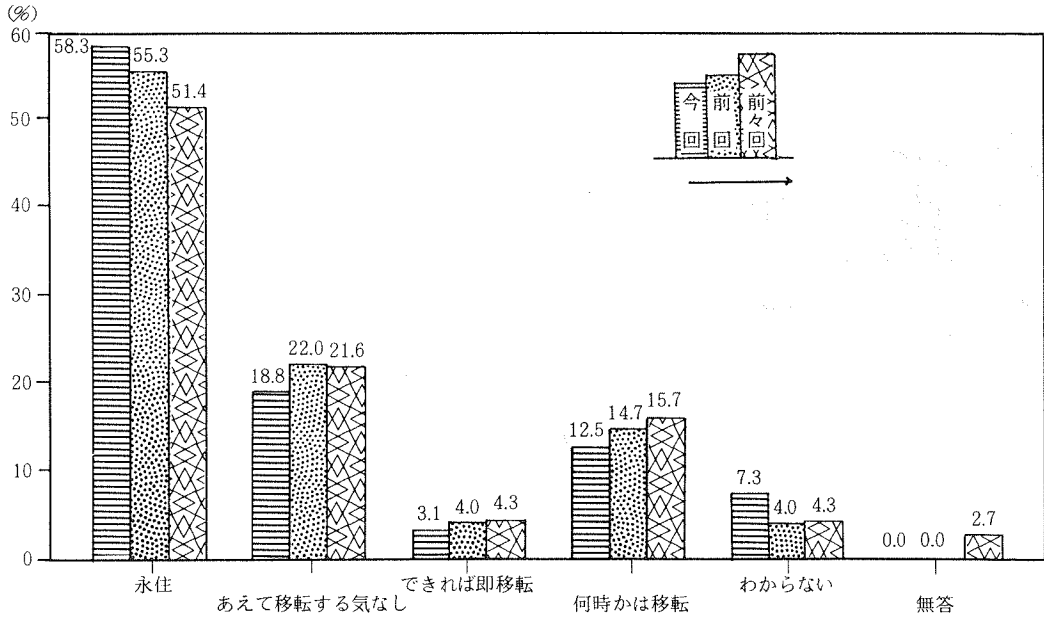
③ 那覇



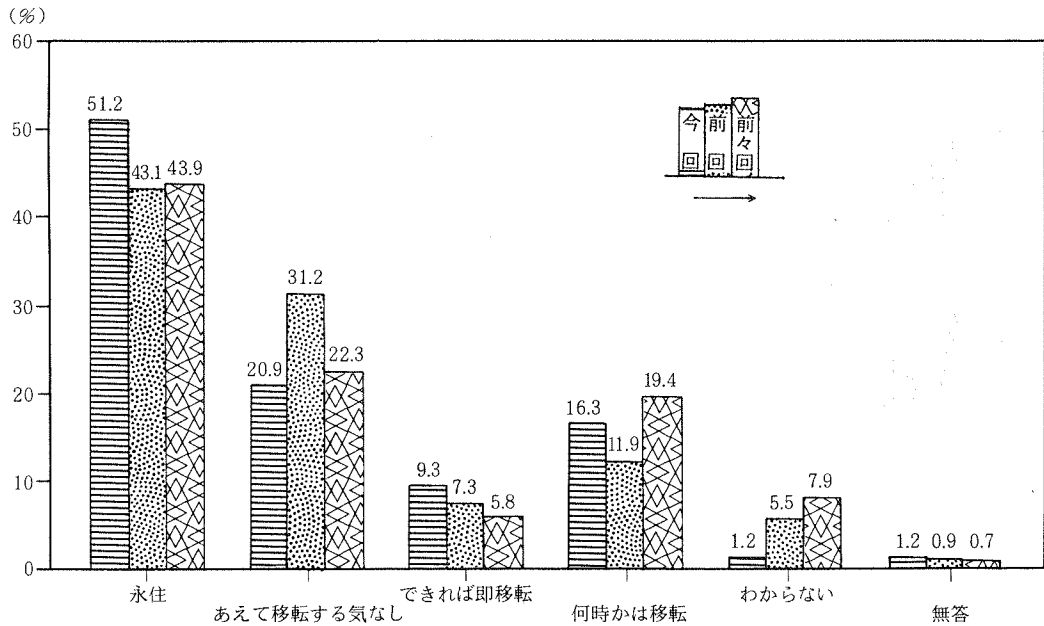
④ 南部



⑤ 宮古



⑥ 八重山



(4) 地域状態別にみた定住意向

さらに、地域状態別にみると、「永住志向型」が農村地域と漁村地域で、それぞれ53.1%、50.8%と際立っており、商店街や新興住宅地ではその度合いは弱いようである。「現在地住居志向型」については、漁村地域が15.0%と他の地域に比べ低く、住宅街、住商混在地域、商店街及び新興住宅地はほぼ同程度の志向である。また、「潜在的移転志向型」については、農村地域が15.9%と最も低く、商店街や新興住宅地等では、その志向が高くなっている。次に、「即移転志向型」については、水準的に全地域とも低位にあるが、なかでも、住宅街が7.3%と最も強い志向となっている。

図5-4-8 地域状態別にみた定住の意向

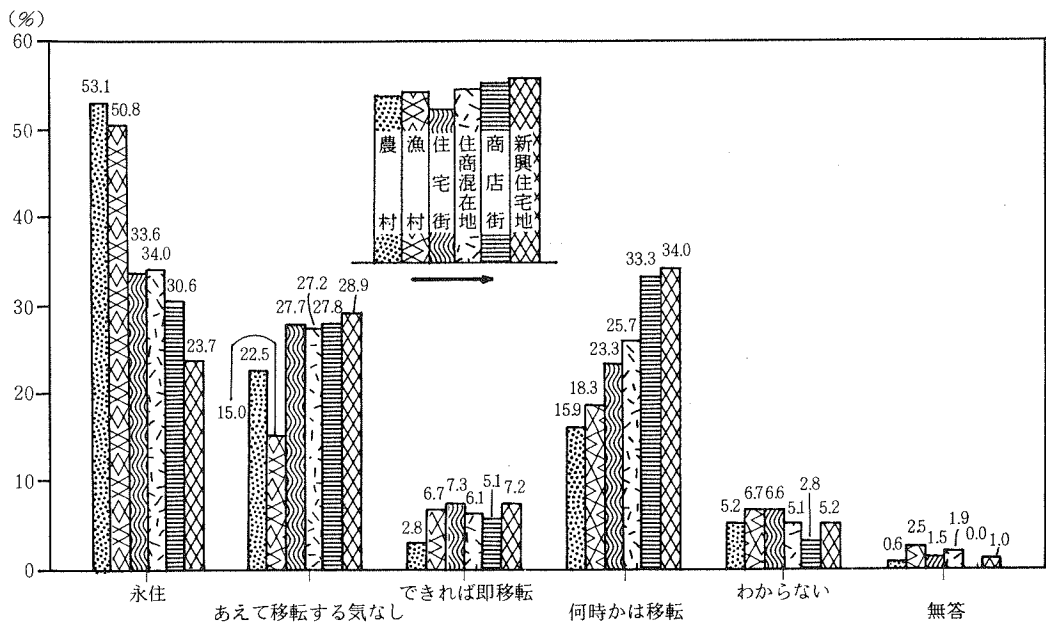


表5-4-1 定住の意向の集計表

① 男女別

(単位:%)

項目	男女計			男			女		
	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回
永住	38.9	35.6	32.9	40	35.6	31.5	37.9	35.6	34.2
あえて移転する気なし	25.6	27.5	25.9	25	27.9	27.4	26.3	27	24.5
できれば即移転	5.8	6.6	7.4	5.7	6.7	6.8	6	6.6	8
何時かは移転	22.4	24.7	24.9	22.5	24.4	25.3	22.5	24.9	24.5
わからない	5.8	4.6	5.3	5.3	4.4	5	6.1	4.8	5.6
無答	1.5	1	3.7	1.5	0.9	4.1	1.2	1.1	3.3
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100
(定住型)	64.5	63.1	58.8	65.0	63.5	58.9	64.2	62.6	58.7
(移転型)	28.2	31.3	32.3	28.2	31.1	32.1	28.5	31.5	32.5

② 年齢階級別

(単位:%)

項目	15~19			20~29			30~39		
	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回
永住	22.2	24.7	12.3	29.4	21.5	21.2	24.9	24.1	26.9
あえて移転する気なし	21	29.6	32.6	27.9	29.9	26.6	26.6	29.8	26.5
できれば即移転	7.4	5.2	7.4	4.1	8.4	10.2	10.1	10.2	9.2
何時かは移転	33.3	27	32.3	28.3	32	31.7	32.1	30.7	30.2
わからない	14.2	11.6	11.7	9.3	6.3	7.3	5.7	4.6	4
無答	1.9	1.9	3.6	1	1.9	3	0.6	0.7	3.1
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100
(定住型)	43.2	54.3	44.9	57.3	51.4	47.8	51.5	53.9	53.4
(移転型)	40.7	32.2	39.7	32.4	40.4	41.9	42.2	40.9	39.4

項目	40~49			50~59			60~70
	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回	今回
永住	34.4	41.1	38.7	51.1	52.9	52.2	67.1
あえて移転する気なし	32.5	27.4	25.7	25.4	25.5	20.5	15.6
できれば即移転	6.2	6.9	6.7	4.1	2.4	4.3	1.8
何時かは移転	21	22	20.2	15.3	17.2	16.5	8.8
わからない	4.7	1.9	3.9	2.4	1.5	3.3	4.4
無答	1.2	0.7	4.8	1.7	0.5	3.1	2.1
計	100	100	100	100	100	100	100
(定住型)	66.9	68.5	64.4	76.5	78.4	72.7	82.7
(移転型)	27.2	28.9	26.9	19.4	19.6	20.8	10.6

③ 地域別

(単位:%)

項目	北部			中部			那覇		
	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回
永住	54.6	48.5	43.2	36	33.5	30.5	32.1	29.4	21.8
あえて移転する気なし	18.6	21	20.4	28.2	30.5	26.6	26.4	27.2	26.7
できれば即移転	3.2	5.2	4.7	6.1	5.6	8.1	7.2	9.3	11.1
何時かは移転	15.9	17.7	17.4	21.9	24.4	26.1	26.9	31	33.3
わからない	5.5	6.6	7	6.3	5.1	5.3	5.7	2.5	3.8
無答	2.3	1.1	7.2	1.4	0.9	3.5	1.7	0.7	3.3
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100
(定住型)	73.2	69.5	63.6	64.2	64.0	57.1	58.5	56.6	48.5
(移転型)	19.1	22.9	22.1	28.0	30.0	34.2	34.1	40.3	44.4

項目	南部			宮古			八重山		
	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回
永住	40.3	34.2	36.3	58.3	55.3	51.4	51.2	43.1	43.9
あえて移転する気なし	25	26.6	29.7	18.8	22	21.6	20.9	31.2	22.3
できれば即移転	4.2	6.2	4.2	3.1	4	4.3	9.3	7.3	5.8
何時かは移転	24.2	25.5	20.9	12.5	14.7	15.7	16.3	11.9	19.4
わからない	5.6	5.5	5.9	7.3	4	4.3	1.2	5.5	7.9
無答	0.8	2.1	3	0	0	2.7	1.2	0.9	0.7
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100
(定住型)	65.3	60.8	66.0	77.1	77.3	73.0	72.1	74.3	66.2
(移転型)	28.4	31.7	25.1	15.6	18.7	20.0	25.6	19.2	25.2

④ 地域状態別(今回のみ)

(単位:%)

	農村	漁村	住宅街	住商混在地	商店街	新興住宅地
永住	53.1	50.8	33.6	34	30.6	23.7
あえて移転する気なし	22.5	15	27.7	27.2	27.8	28.9
できれば即移転	2.8	6.7	7.3	6.1	5.6	7.2
何時かは移転	15.9	18.3	23.3	25.7	33.3	34
わからない	5.2	6.7	6.6	5.1	2.8	5.2
無答	0.6	2.5	1.5	1.9	0	1
計	100	100	100	100	100	100
(定住型)	75.6	65.8	61.3	61.2	58.4	52.6
(移転型)	18.7	25.0	30.6	31.8	38.9	41.2

(5) 定住の理由

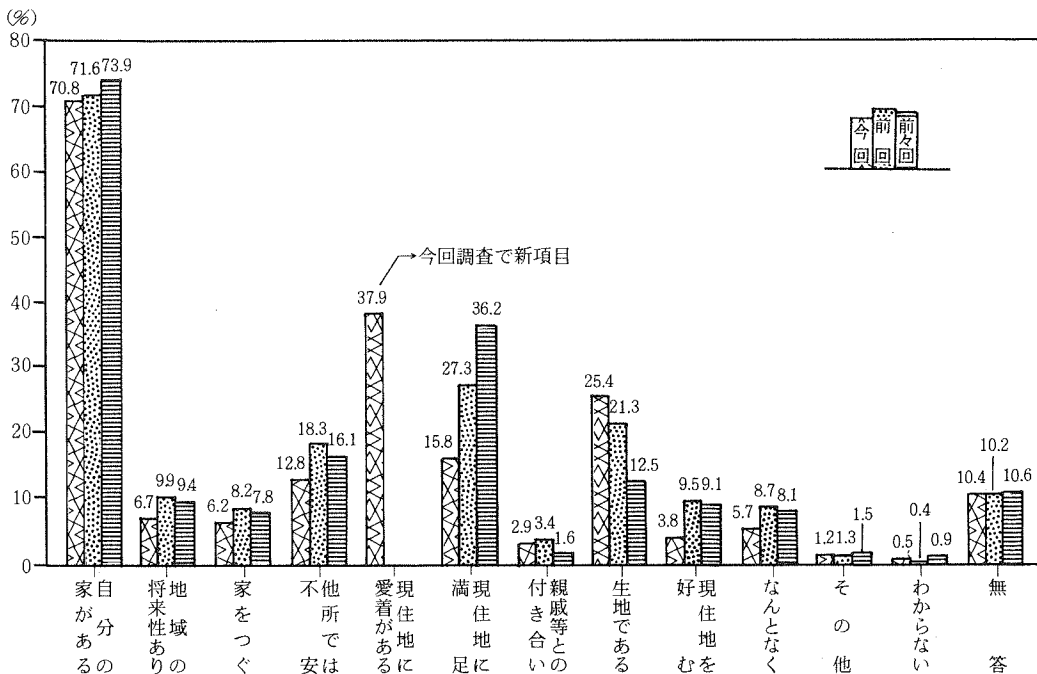
ア 県計でみた今回結果と時系列比較

今までみたように、定住の意向については、「定住型」が64.5%と大半の人がその志向を示しているが、次に、その理由について、12項目から2項目選択する方式で聞いてみた。

その理由で最も多かったのは、「自分の家がある」で70.8%と突出しており、次いで、「現住地に愛着がある」(37.9%)、「生地である」(25.4%)とつづいている。

また、過去2回の調査結果と比較してみると、「自分の家がある」について、前々回73.9%、前回71.6%、今回70.8%と水準的には高い志向を維持しながらも、回を重ねるごとに、若干その割合が低下してきている。今回調査で第3位とされた「生地である」について、前々回の12.5%から前回21.3%、今回は25.4%とその割合を高めたが、逆に、「現住地に満足」については、前々回の36.2%から前回27.3%、今回15.8%と志向割合を低めるなど、この2項目が対比的に著しい変化をみせている。

図5-4-9 調査時点別にみた定住の理由(男女計)



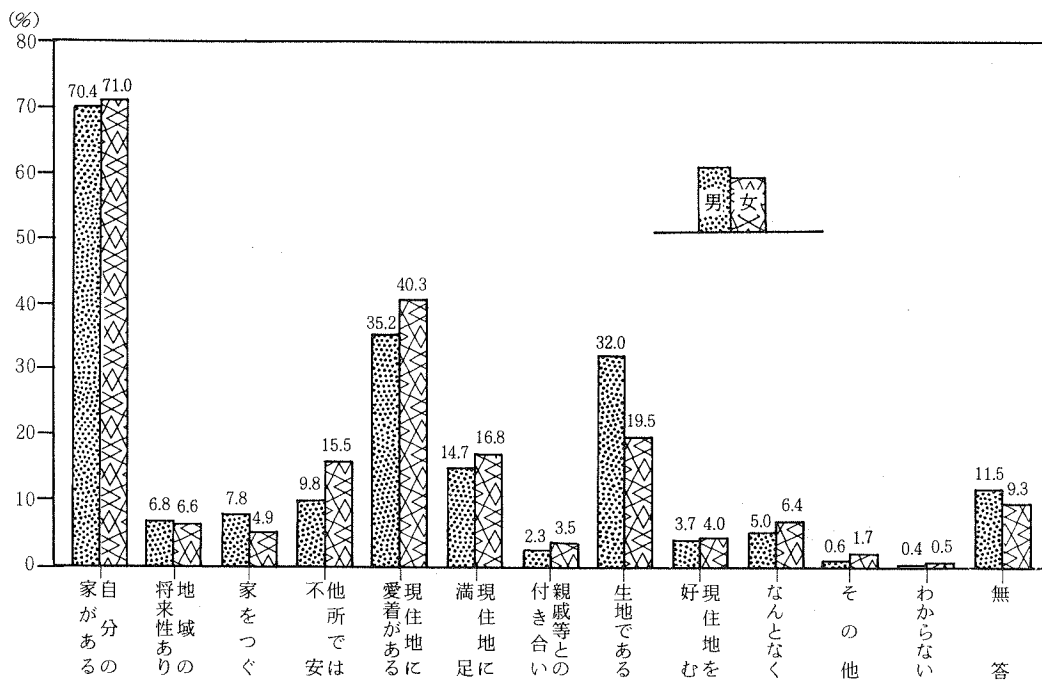
イ 男女別でみた定住理由

次に、その理由を男女別にみると、男女とも「自分の家がある」（男子70.4%、女子71.0%）が最も多く、次いで、「現住地に愛着がある」（男子35.2%、女子40.3%）、「生地である」（男子32.0%、女子19.5%）となっており、順位的には共通の見方を示している。しかし、「現住地に愛着がある」について、女子が男子を5.1ポイント、「生地である」について、男子が女子を12.5ポイント上回るなどその志向度合いにおいては男女差がみられる。

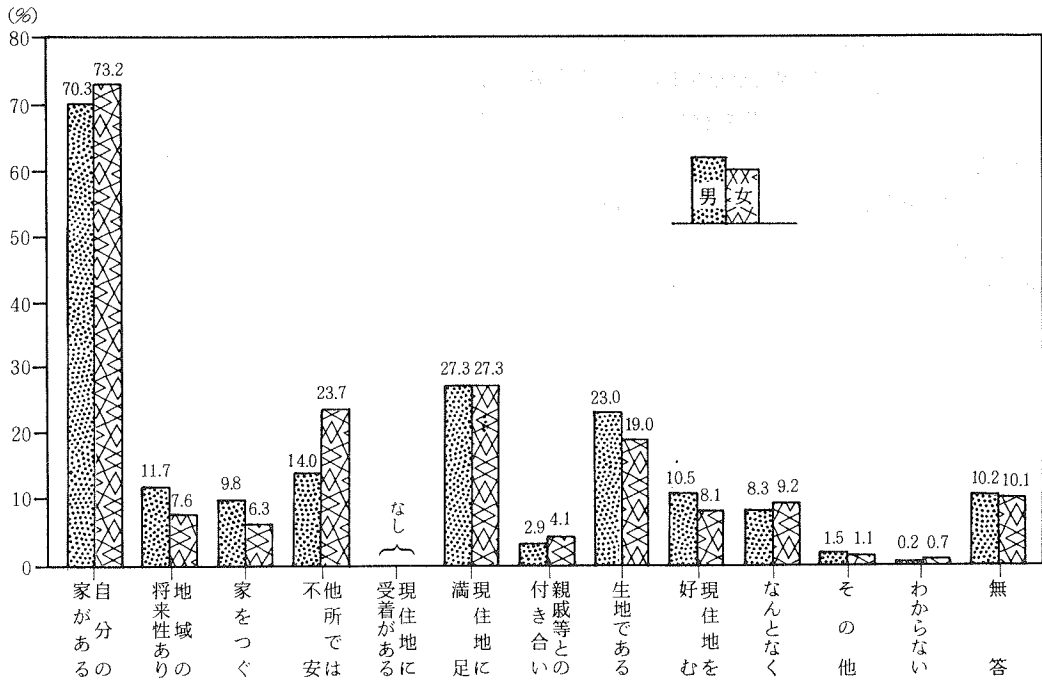
また、過去2回の調査と比べてみると、「自分の家がある」について、男子が前々回の72.6%から前回70.3%、今回70.4%と若干変化したのに対し、女子は前々回の75.2%から前回73.2%へ2.0ポイント低下、さらに今回71.0%へと2.2ポイント低下するなど、低下度合いで女子が男子を上回るかたちで変化している。「生地である」については、前々回男子が13.6%、女子が11.5%とほぼ同意識であったが、前は男子が9.4ポイント、女子が7.5ポイント上昇して、それぞれ23.0%、19.0%と志向が高まったものの、男女差が前々回の2.1ポイントから前回は4.0ポイントと両者の志向度合差が約2倍になるほど、男子が女子より強い志向を持っていた。さらに、今回の調査結果でみると、女子がわずか0.5ポイント上昇したのに比べ、男子は9.0ポイントも上昇するなど男子の志向度合いがより一層高まり、男女差で12.5ポイントと前回の4.0ポイントをますます上回り、男女の志向差が大きく開いてきている状況にある。

図5-4-10 男女別にみた定住の理由

① 今回



② 前回



③ 前々回

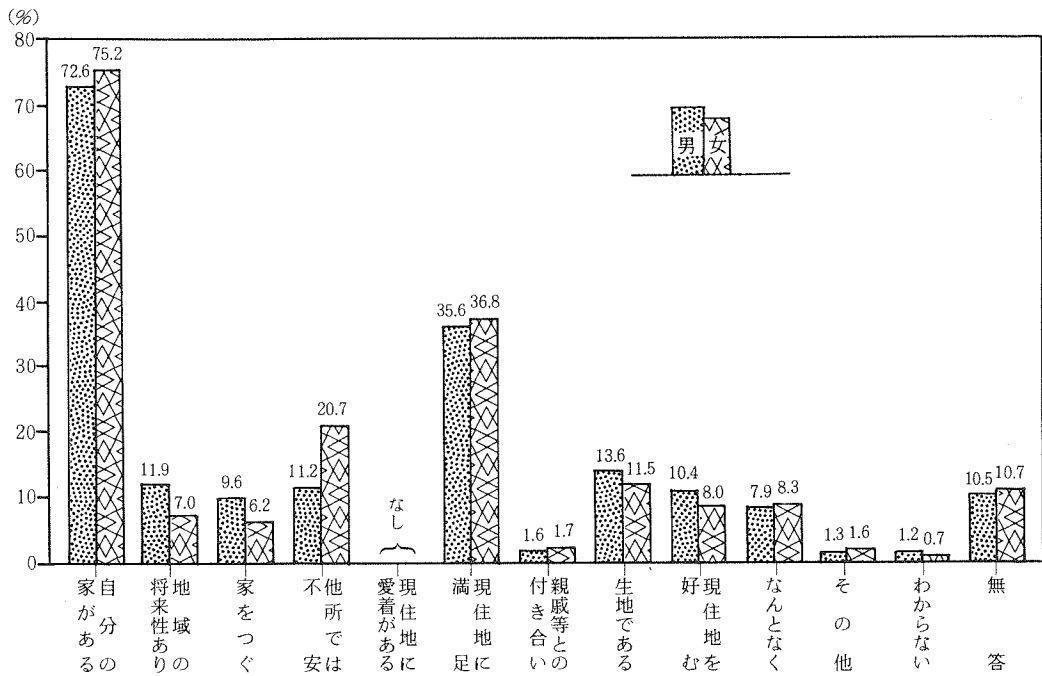


表5-4-2 定住理由の集計表

① 男女別

(単位:%)

項目	区分	県 計			男			女		
		今回	前回	前々回	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回
自分の家がある		70.8	71.6	73.9	70.4	70.3	72.6	71	73.2	75.2
地域の将来性あり		6.7	9.9	9.4	6.8	11.7	11.9	6.6	7.6	7
家をつぐ		6.2	8.2	7.8	7.8	9.8	9.6	4.9	6.3	6.2
他所では不安		12.8	18.3	16.1	9.8	14	11.2	15.5	23.7	20.7
現住地に愛着がある		37.9	—	—	35.2	—	—	40.3	—	—
現住地に満足		15.8	27.3	36.2	14.7	27.3	35.6	16.8	27.3	36.8
親戚等との付き合い		2.9	3.4	1.6	2.3	2.9	1.6	3.5	4.1	1.7
生地である		25.4	21.3	12.5	32	23	13.6	19.5	19	11.5
現住地を好む		3.8	9.5	9.1	3.7	10.5	10.4	4	8.1	8
なんとなく		5.7	8.7	8.1	5	8.3	7.9	6.4	9.2	8.3
その他		1.2	1.3	1.5	0.6	1.5	1.3	1.7	1.1	1.6
わからない		0.5	0.4	0.9	0.4	0.2	1.2	0.5	0.7	0.7
無答		10.4	10.2	10.6	11.5	10.2	10.5	9.3	10.1	10.7
計		200	200	200	200	200	200	200	200	200

② 年齢階級別

項目	区分	15~19			20~29			30~39		
		今回	前回	前々回	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回
自分の家がある		42.9	60	53.4	46.1	50.8	52.3	63	64.1	70.1
地域の将来性あり		4.3	6.2	5.3	7.8	11.5	8	7.5	11.2	11.6
家をつぐ		8.6	6.2	7.7	7.8	12.7	12.3	9.3	10.1	9.4
他所では不安		18.6	29	21.6	11.7	17.2	13.9	12.5	15.2	15
現住地に愛着がある		31.4	—	—	39.6	—	—	34.9	—	—
現住地に満足		14.3	16.6	20.2	19.5	28.3	31.2	20.6	31.4	38
親戚等との付き合い		4.3	4.1	1.4	3.2	2	1.9	2.5	2.4	1.3
生地である		40	29	20.7	37.7	28.3	18.9	24.6	20.2	9.6
現住地を好む		7.1	14.5	23.1	7.1	12.3	11.5	2.5	8.5	8.3
なんとなく		7.1	9.7	20.2	7.8	11.9	13.6	6.8	10.9	8.9
その他		4.3	4.1	1	0.6	0.4	2.4	2.8	1.9	2.5
わからない		1.4	—	3.4	0.6	0.8	1.1	0.4	0.8	0.6
無答		15.7	6.9	9.1	10.4	12.7	14.7	12.8	11.7	11.6
計		200	200	200	200	200	200	200	200	200

項目	区分	40~49			50~59			60~70
		今回	前回	前々回	今回	前回	前々回	今回
自分の家がある		72.1	78.2	85.2	81.1	83.9	85.1	84.7
地域の将来性あり		7.6	9.9	9.3	5.4	9.6	10	6.4
家をつぐ		5.1	5.6	5.6	5.4	8.7	5.7	4.6
他所では不安		14	18.5	16	11.8	18.9	15.7	12.1
現住地に愛着がある		37	—	—	39.7	—	—	39.5
現住地に満足		16.2	30.1	40.8	16.9	22.6	44.5	7.8
親戚等との付き合い		1.9	4.1	2.3	3.4	4.6	1	2.5
生地である		23.2	15.7	9	21.1	17.3	8.5	23.8
現住地を好む		4.1	10.9	5.8	2.5	6.2	6.5	3.6
なんとなく		7.9	7.6	4.9	4.5	7.7	3.7	2.1
その他		0.6	0.8	1.2	0.3	1.2	0.7	0.7
わからない		0.6	0.3	0.2	0	0	0.7	0.7
無答		9.5	9.6	9.9	7.9	9.6	8.5	11.4
計		200	200	200	2001	200	200	200

③ 地域別

(単位:%)

項目	北 部			中 部			那 覇		
	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回
自分の家がある	72.1	71.4	73.7	74.9	75.2	76.7	62.4	65.9	66.8
地域の将来性あり	2.5	10.6	13.5	8.5	11	10.3	7.5	10.1	8.1
家をつぐ	10.6	10.6	8.3	5.4	7.3	6.2	1.4	4.1	5.7
他所では不安	9.3	16.4	14.1	13.1	18.5	16.6	17.5	20.3	16.1
現住地に愛着がある	28.6	—	—	37.5	—	—	47.7	—	—
現住地に満足	14.3	22.2	38.8	14.4	27.4	32.1	20.7	33.8	37.4
親戚等との付き合い	3.1	2.1	0.6	3	2.9	2.2	3.7	2.9	0.9
生地である	34.2	31.7	9.9	23.6	18.8	13.9	18.4	16.4	8.1
現住地を好む	4.4	7.9	9.3	3.2	7.3	8.7	4	12.6	10.9
なんとなく	5	7.4	2.6	4.9	9.9	8.7	7.5	10.1	12.8
その他	0.6	0.5	0.6	1.2	0.8	1.4	1.7	1.9	3.8
わからない	0	—	1.3	0.8	0.6	1.2	0.6	0.2	0.9
無答	15.5	10.1	11.9	9.6	11.8	10.7	6.9	10.9	14.7
計	200	200	200	200	200	200	200	200	200

項目	南 部			宮 古			八重山		
	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回
自分の家がある	69.8	67.9	75.1	85.1	76.7	77.3	61.3	77.8	67
地域の将来性あり	4.7	6.4	6.8	5.4	8.6	6.6	4.8	11.1	9.9
家をつぐ	10.2	13.2	11.3	8.1	14.7	10.5	12.9	4.9	11
他所では不安	8.5	20.4	15.7	10.8	8.6	16	11.3	18.5	19.8
現住地に愛着がある	34	—	—	24.3	—	—	40.3	—	—
現住地に満足	12.3	21.1	37.3	17.6	22.4	40.3	17.7	32.1	49.5
親戚等との付き合い	2.6	7.5	1.2	0	3.4	2.2	1.6	—	3.3
生地である	31.5	27.2	14.8	32.4	25.9	17.7	27.4	14.8	7.7
現住地を好む	3.8	7.2	9.2	6.8	15.5	7.7	3.2	12.3	7.7
なんとなく	6.8	7.5	8	4.1	3.4	5	3.2	6.2	5.5
その他	1.3	1.9	0.7	0	0.9	—	0	2.5	—
わからない	0	0.8	0.7	0	—	—	0	—	—
無答	14.5	6	8	5.4	7.8	4.4	16.1	11.1	12.1
計	200	200	200	200	200	200	200	200	200

(6) 移転の理由

ア 県計でみた今回結果と時系列比較

移転の理由を17項目から2項目選択する方法でその意向を聞いてみたところ、「自分の家を持つため」が51.7%、「家が狭い」が40.9%とこの2項目が最も多い理由となっており、個人的要因がその意向を支えているようである。

次いで「環境が悪い」が15.0%と3位に位置づけられているが、それは社会的要因に基づくものであり、社会（住宅）環境の整備が指摘されよう。

これらの動きを、過去2回の調査結果と比較してみると、順位的に変化はなく、見方が同じ傾向となっている。意向度合いでみると、「自分の家を持つ」が前々回、前回の48.6%から今回の51.7%へと3.1ポイント上昇し、「家が狭い」については、前々回の37.5%から前回は36.8%へと若干低下したものの、今回は40.9%へと4.1ポイントも前回を上回っている。一方、「環境が悪い」については、前々回17.1%、前回18.4%と若干上昇したが、今回は逆に15.0%へと3.4ポイント低下している状況である。また、「いい暮らしを求めて」が9.1%と水準的には低いですが、前回の0.3ポイント低下に対し、今回は7.0ポイント上昇するなど、その変化度合いは17項目中最も強く、特徴的といえよう。

図5-4-11 調査時点別にみた定住の理由（男女別）

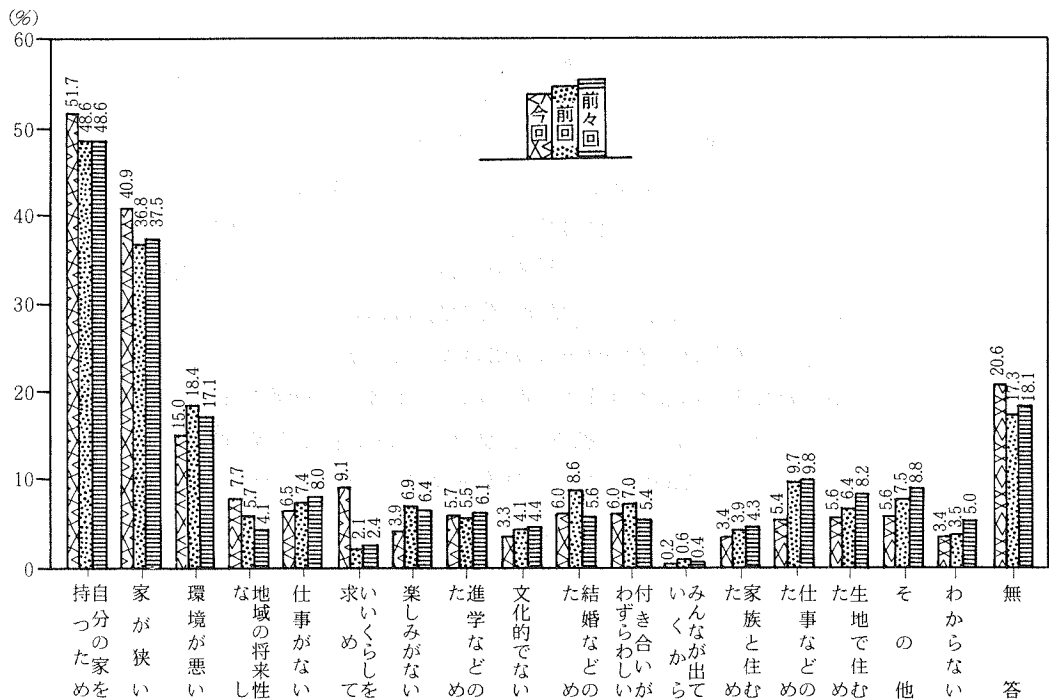
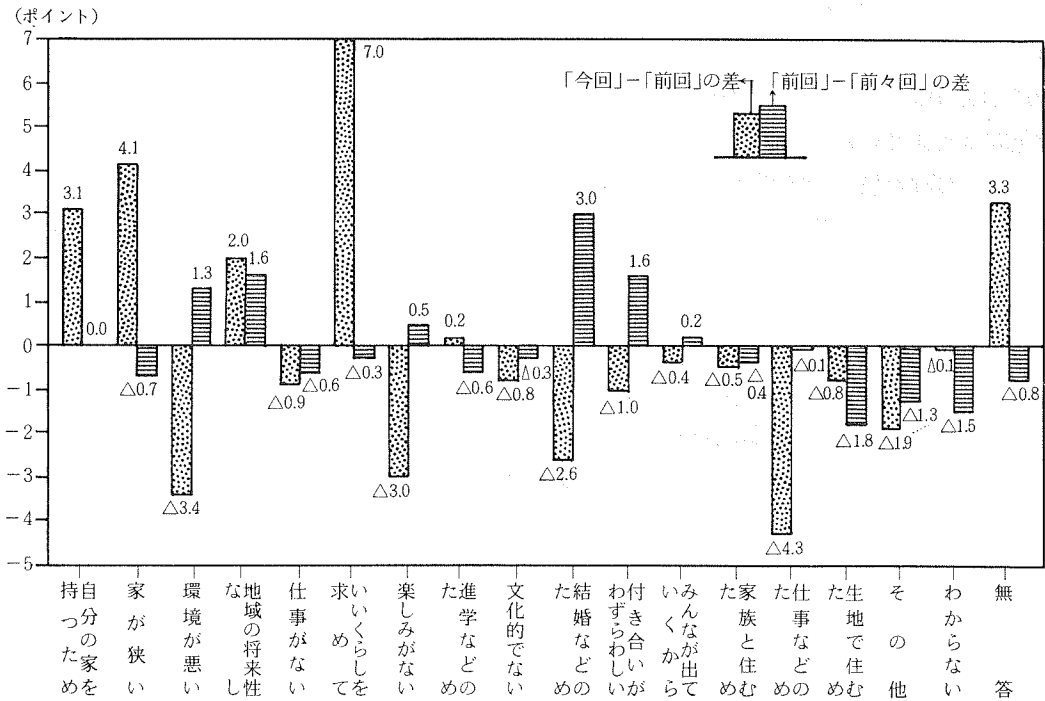


図 5-4-12 移転の理由についての調査間のポイント差（男女計）



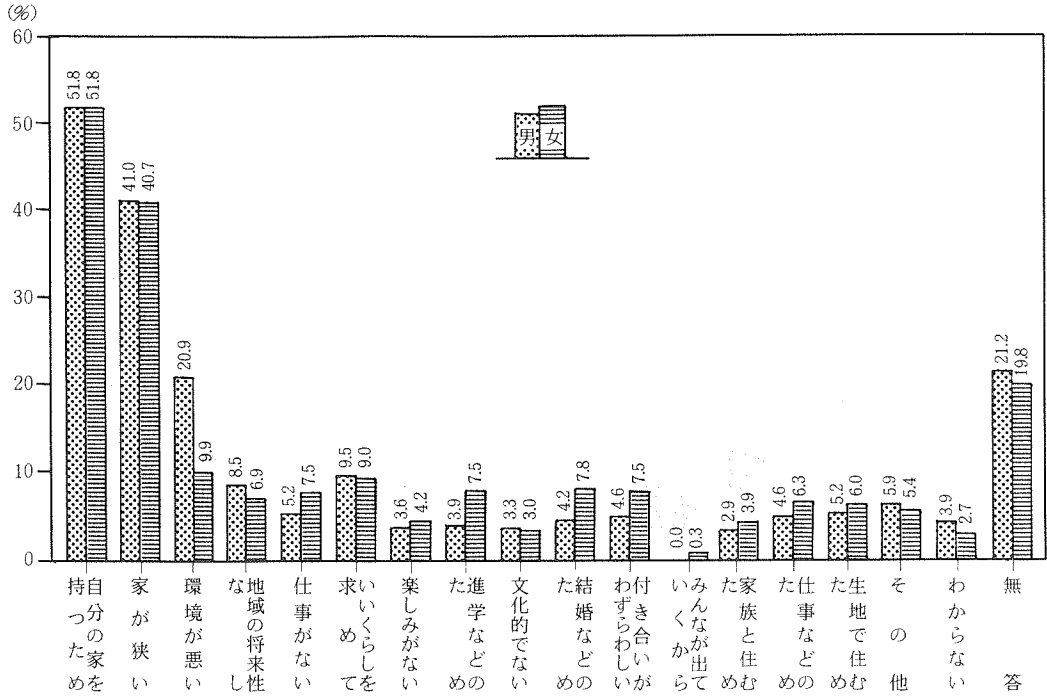
イ 男女別にみた移転理由

次に、男女別にみると、男女とも「自分の家を持つため」（男子51.8%、女子51.8%）、「家が狭い」（男子41.0%、女子40.7%）、「環境が悪い」（男子20.9%、女子9.9%）を上位とするなど、順位的には同意識を示しているが、内容的には、「自分の家を持つため」と「家が狭い」が同率ないしほぼ同じ意向を持っている。これに対し、「環境が悪い」については、男子が20.9%と女子の9.9%を大幅に上回るなど、男子が女子より強い意向を示している。また、水準的には低い評価にとどまっているものの、「結婚などのため」、「付き合いがわずらわしい」、「進学などのため」、「仕事などのため」など17項目中9項目については、度合差はあれ、女子が男子を上回っている状況にあり、移転したいという意向は女子が男子より強いようである。

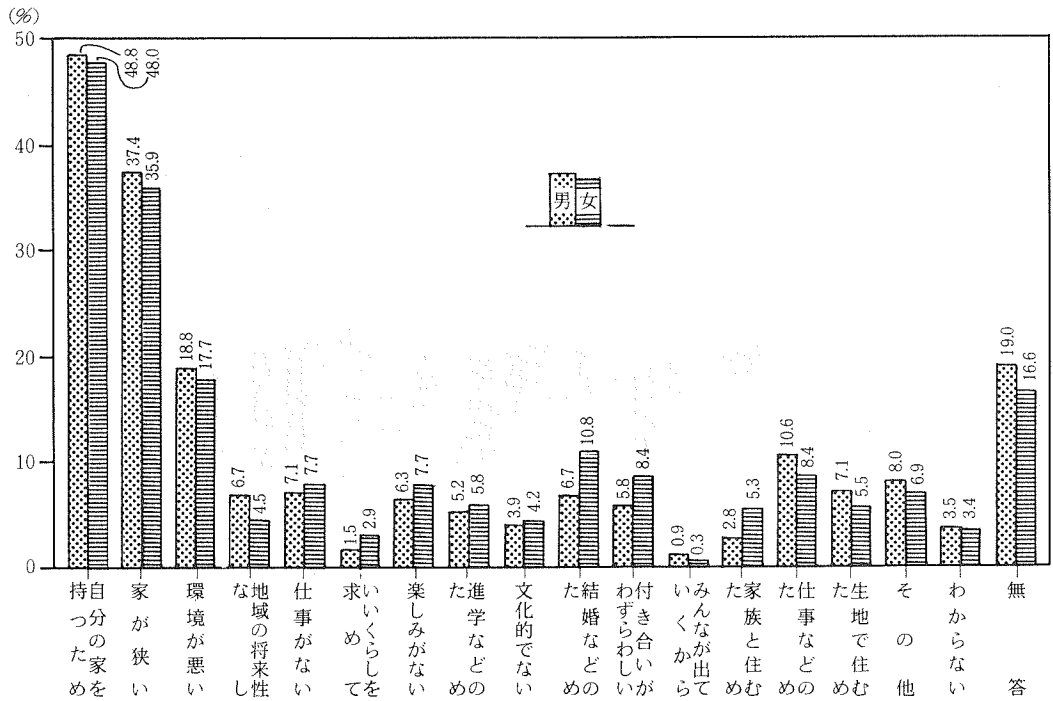
なお、過去2回の調査結果と比較してみると、男子については、「仕事などのため」が前々回、前回の10.6%から今回4.6%へと6.0ポイント低下し、また「いい暮らしを求めて」が前々回と前回の2.3%、1.5%から今回の9.5%へと8.0ポイント上昇するなど、「仕事などのため」が減少、「いい暮らしを求めて」が増加と大きな変化度合いを示している。一方、女子についても、「仕事などのため」と「いい暮らしを求めて」については、上昇及び低下度合いが男子ほどではないものの、男子と同じ傾向を示している。さらに、「環境が悪い」については、前々回の15.1%から前回は17.7%へと増加したが、今回は9.9%と7.8ポイントの低下を示し、「いい暮らしを求めて」が9.0%と水準的には低い、前回の0.4ポイント上昇に対し、今回は6.1ポイントも上昇するなど、その変化度合いは17項目中最も高く、特徴的といえよう。

図5-4-13 男女別にみた移転理由

① 今回



② 前回



③ 前々回

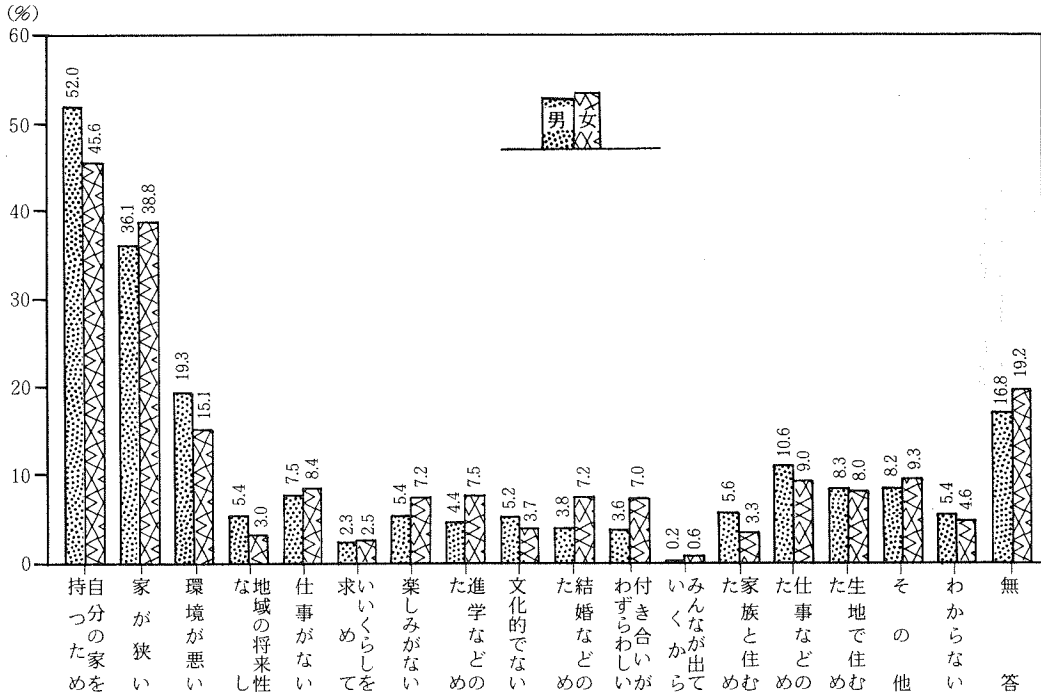
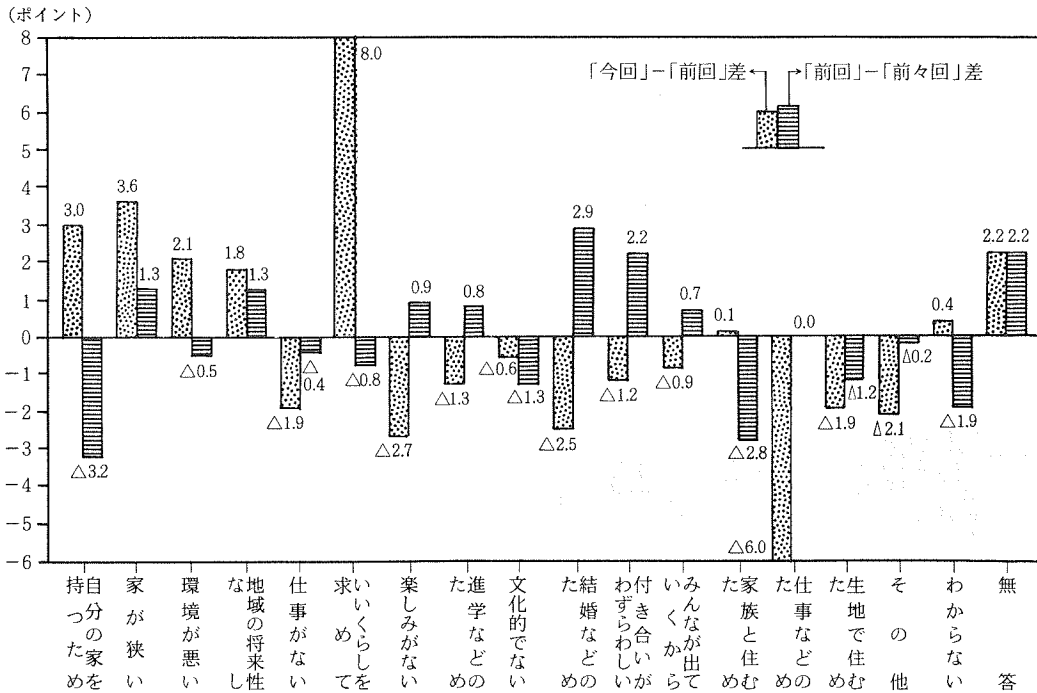


図5-4-14 移転理由についての調査間のポイント差 (男女別)

① 男



② 女

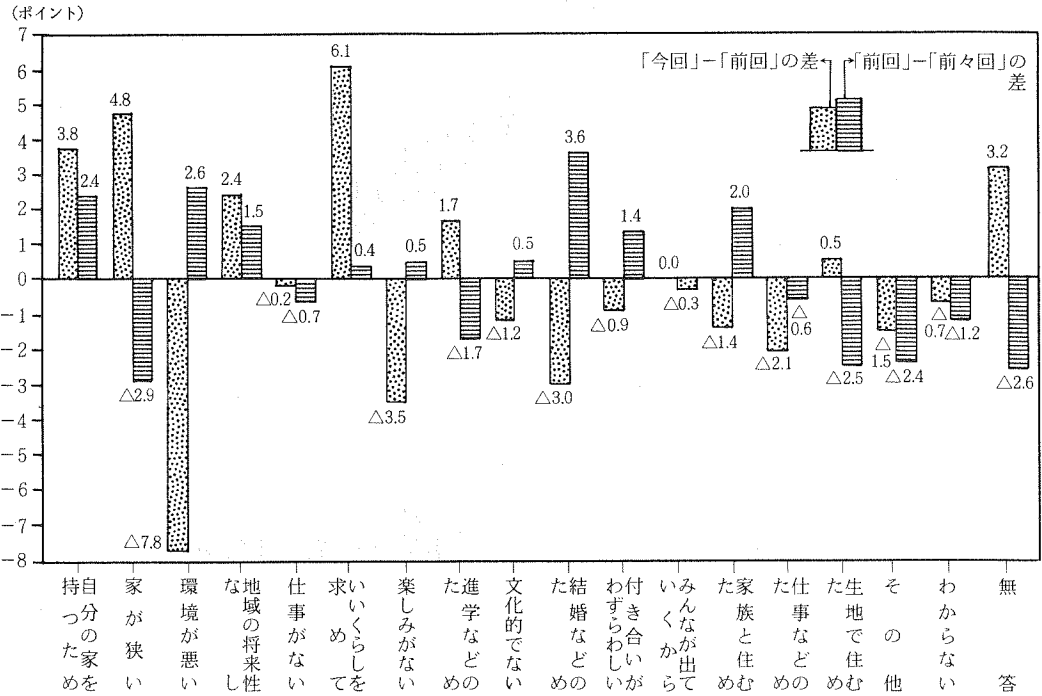


表5-4-3 移転の理由の集計表

① 男女別

(単位：%)

項目	男女計			男			女		
	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回
自分の家を持つため	51.7	48.6	48.6	51.8	48.8	52	51.8	48	45.6
家が狭い	40.9	36.8	37.5	41	37.4	36.1	40.7	35.9	38.8
環境が悪い	15	18.4	17.1	20.9	18.8	19.3	9.9	17.7	15.1
地域の将来性なし	7.7	5.7	4.1	8.5	6.7	5.4	6.9	4.5	3
仕事がない	6.5	7.4	8	5.2	7.1	7.5	7.5	7.7	8.4
いい暮らしを求めて	9.1	2.1	2.4	9.5	1.5	2.3	9	2.9	2.5
楽しみがない	3.9	6.9	6.4	3.6	6.3	5.4	4.2	7.7	7.2
進学などのため	5.7	5.5	6.1	3.9	5.2	4.4	7.5	5.8	7.5
文化的でない	3.3	4.1	4.4	3.3	3.9	5.2	3	4.2	3.7
結婚などのため	6	8.6	5.6	4.2	6.7	3.8	7.8	10.8	7.2
付き合いがわずらわしい	6	7	5.4	4.6	5.8	3.6	7.5	8.4	7
みんなが出ていくから	0.2	0.6	0.4	0	0.9	0.2	0.3	0.3	0.6
家族と住むため	3.4	3.9	4.3	2.9	2.8	5.6	3.9	5.3	3.3
仕事などのため	5.4	9.7	9.8	4.6	10.6	10.6	6.3	8.4	9
生地で住むため	5.6	6.4	8.2	5.2	7.1	8.3	6	5.5	8
その他	5.6	7.5	8.8	5.9	8	8.2	5.4	6.9	9.3
わからない	3.4	3.5	5	3.9	3.5	5.4	2.7	3.4	4.6
無答	20.6	17.3	18.1	21.2	19	16.8	19.8	16.6	19.2
計	200	200	200	200	200	200	200	200	200

② 年齢階級別

(単位:%)

項目	15~19			20~29			30~39			40~49			50~59		61~70
	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回	今回	今回	
自分の家を持つため	39.4	41.9	33.3	55.2	59.1	56.8	63	55.1	56.3	47.7	37.3	41.2	38.9	41.7	
家が狭い	40.9	27.9	27.8	42.5	34.2	28.9	44.8	37.2	43.5	38.3	39.1	46.7	37.8	30.6	
環境が悪い	9.1	12.8	16.7	9.2	10.4	16.8	14.3	23.5	15.6	18.8	18.9	20	21.1	19.4	
地域の将来性なし	6.1	2.3	3.9	3.4	5.2	2.2	5.7	3.9	4.1	9.4	8.3	4.2	11.1	19.4	
仕事がない	13.6	15.1	18.9	9.2	9.8	8.4	3.9	5.6	3.6	6.3	4.1	6.2	1.1	13.9	
いい暮らしを求めて	10.6	2.3	3.9	6.9	4.7	3.1	6.5	0.4	1	11.7	3	2.9	13.3	8.3	
楽しみがない	16.7	10.5	14.4	3.4	7.8	6.5	2.2	6	2.8	1.6	3.6	5.4	4.4	0	
進学などのため	13.6	16.3	12.2	9.2	3.1	4.7	5.7	4.9	6.6	5.5	6.5	5.4	1.1	2.8	
文化的でない	4.6	4.7	7.8	2.3	3.1	3.7	2.6	3.5	3.1	3.9	5.3	4.2	3.3	2.8	
結婚などのため	12.1	19.8	12.8	23	18.1	10.2	4.3	5.6	3.1	0.8	1.2	1.7	0	0	
付き合いがわずらわしい	0	5.8	6.7	3.4	5.7	8.1	6.5	7.7	5.1	10.2	9.5	3.3	7.8	2.8	
みんなが出ていくから	0	—	0.6	1.1	1.6	0.6	0	0.4	0.5	0	—	—	0	0	
家族と住むため	0	1.2	1.1	2.3	1	1.6	0	2.5	3.6	3.1	4.1	2.9	12.2	13.9	
仕事などのため	6.1	8.1	15	8	9.8	10.6	5.2	11.6	10.5	4.7	12.4	6.7	5.6	0	
生地で住むため	3	2.3	2.8	5.7	6.7	5.3	7.8	6	7.4	3.1	8.3	14.2	3.3	8.3	
その他	3	7	5	2.3	3.6	9.9	6.1	8.1	9.7	6.3	8.3	11.2	7.8	8.3	
わからない	6.1	3.5	3.9	3.4	3.1	7.8	3.1	3.9	2.8	2.3	3	5	2.2	5.6	
無答	15.2	18.6	13.3	11.5	13	14.9	18.3	14.4	20.7	26.6	27.2	18.7	28.9	22.2	
計	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	

③ 地域別

(単位:%)

項目	北部			中部			那覇			南部			宮古八重山		
	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回	今回	前回	前々回
自分の家を持つため	42.9	41.9	43.7	48.7	48.5	47.2	58.6	49.7	55.2	52.9	53.6	46.9	40.5	34.7	37.3
家が狭い	26.2	27.4	22.3	32.6	32.3	38.3	58.1	47.3	49.5	38.2	34.1	26.9	27	18.4	16.9
環境が悪い	2.4	11.3	9.8	20.7	17.8	18.5	16.8	23	22.2	3.9	10.9	10.6	10.8	22.4	6
地域の将来性なし	11.9	8.1	8	7.3	6.7	4	6.9	2.4	1.5	5.9	9.4	4.4	16.2	6.1	10.8
仕事がない	21.4	16.1	21.4	6.5	6.4	6.8	0.5	3.7	2.6	8.8	12.3	16.3	16.2	10.2	7.2
いい暮らしを求めて	7.1	4.8	4.5	10.3	2	1.8	10.3	0.7	2.6	4.9	4.3	1.9	8.1	2	3.6
楽しみがない	7.1	8.1	3.6	4.6	5.7	7.9	1	6.1	4.6	4.9	8	4.4	8.1	14.3	12
進学などのため	16.7	8.1	10.7	2.7	3	4.6	4.4	5.4	1	7.8	6.5	10.6	16.2	14.3	24.1
文化的でない	2.4	4.8	6.2	3.8	5.1	5	2.5	3	2.1	3.9	3.6	6.3	2.7	4.1	6
結婚などのため	7.1	9.7	8.9	6.5	11.4	5	5.4	6.8	5.7	7.8	6.5	4.4	0	6.1	7.2
付き合いがわずらわしい	7.1	8.1	5.4	6.5	7.1	6.1	2.5	4.7	4.1	10.8	12.3	5.6	8.1	4.1	6
みんなが出ていくから	0	3.2	—	0.4	0.3	0.4	0	—	—	0	0.7	1.9	0	2	—
家族と住むため	2.4	3.2	6.2	1.9	3	3.7	5.4	4.4	5.2	2.9	3.6	3.8	5.4	8.2	3.6
仕事などのため	4.8	9.7	14.3	6.5	8.4	9	3	8.1	5.7	7.8	10.1	15	5.4	24.5	18.1
生地で住むため	0	8.1	8.9	6.9	7.4	8.6	4.4	6.4	7.7	4.9	3.6	8.8	10.8	6.1	4.8
その他	4.8	3.2	5.4	6.5	9.4	9.5	5.4	8.1	9.3	3.9	4.3	7.5	5.4	6.1	8.4
わからない	2.4	4.8	4.5	2.7	4	5.1	3.9	2.7	4.1	4.9	4.3	6.9	2.7	—	4.8
無答	33.3	19.4	16.1	24.9	21.2	18.5	10.8	17.6	17	25.5	11.6	18.1	16.2	16.3	22.9
計	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200

(7) 移転の希望先

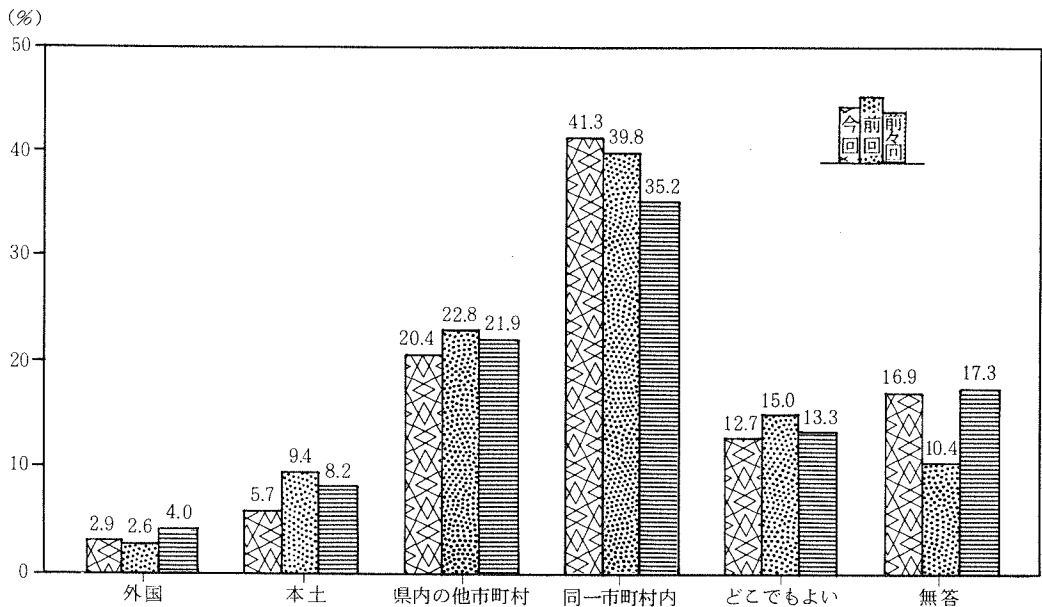
ア 県計でみた今回結果と時系列比較

最後に、移転希望者について、その移転先を5項目の中から1項目選択方式で聞いてみた。

その結果は、「同一市町村内」が41.3%とほぼ半数の人がそれを望み、次いで「県内の他市町村」20.4%、「どこでもよい」12.7%、「本土」5.7%、「外国」2.9%とつづいている。「同一市町村内」と「県内の他市町村」の両方を合わせると61.7%となり、県内志向が強く、又、「無答」として意思表示をしなかった人が16.9%もいる状況である。

また、過去の調査結果と比較すると、「同一市町村内」が前々回の35.2%から前回の39.8%、今回は41.3%へと調査の回ごとに増加を示し、水準的にも高い状況で推移している。一方、「県内の他市町村」が前々回の21.9%から前回の22.8%へ増加したものの、今回は20.4%に低下しており、「本土」（前々回8.2%、前回9.4%、今回5.7%）と「どこでもよい」（前々回13.3%、前回15.0%、今回12.7%）についても前回は増加、今回は減少と「県内の他市町村」と同じ傾向で推移している。

図5-4-15 調査時点別にみた移転希望先（男女計）



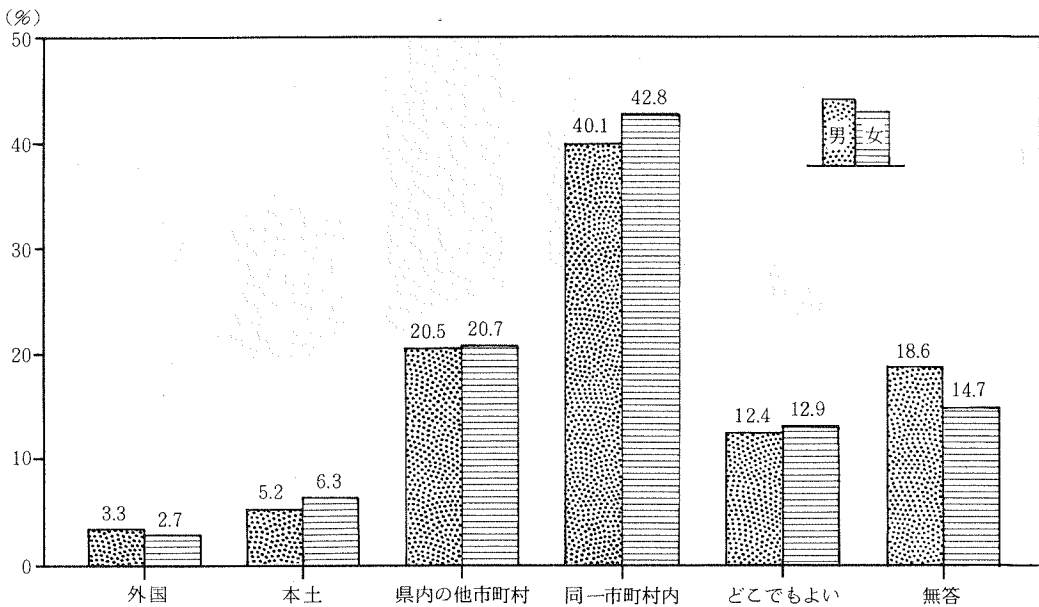
イ 男女別にみた移転の希望先

次に男女別にみると、男女とも「同一市町村内」、「県内の他市町村」、「本土」、「外国」の順になっており、順位的に同じ意向を示している。内容的には「外国」について男子が3.3%と女子の2.7%を若干上回るほかは、「同一市町村内」（男子40.1%、女子42.8%）、「県内の他市町村」（男子20.5%、女子20.7%）、「本土」（男子5.2%、女子6.3%）について女子が男子を上回っており、国内に限定してみると「女子」の移転希望が強く現れているが、国外となるとやはり「男子」がその度合いは強いようである。

なお、過去の調査結果との比較でみると、「本土」について、前々回、前回とも男子がそれぞれ1.5ポイント、0.2ポイント女子を上回っていたが、今回は、逆に女子が男子を1.1ポイント上回っている状況である。また、時間経過とともに大きな変化がみられたのは、男女とも「無答」という意思表示がないことであり、特に、前回のマイナス7.4ポイント差から今回のプラス7.3ポイント差までの大きな開きが男子にみられる。さらに、「県内の他市町村」について、今回女子が0.1ポイント上昇したのに対し、男子は4.0ポイント低下、「外国」については、女子が0.2ポイント低下したのに対し、男子が0.9ポイント上昇するなど項目間に男女差の意向がみられる。

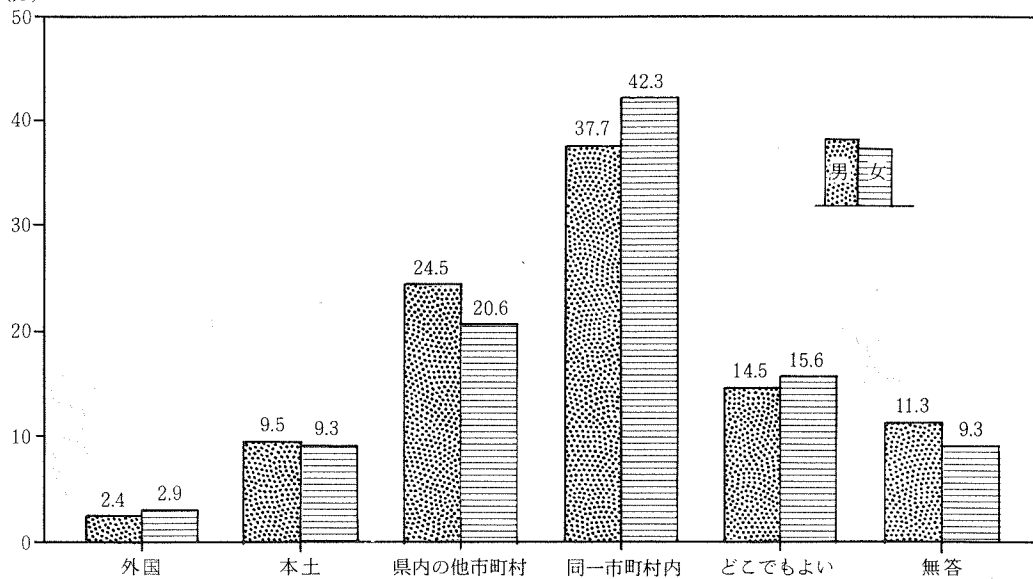
図5-4-16 男女別にみた移転希望先

① 今回



② 前回

(%)



③ 前々回

(%)

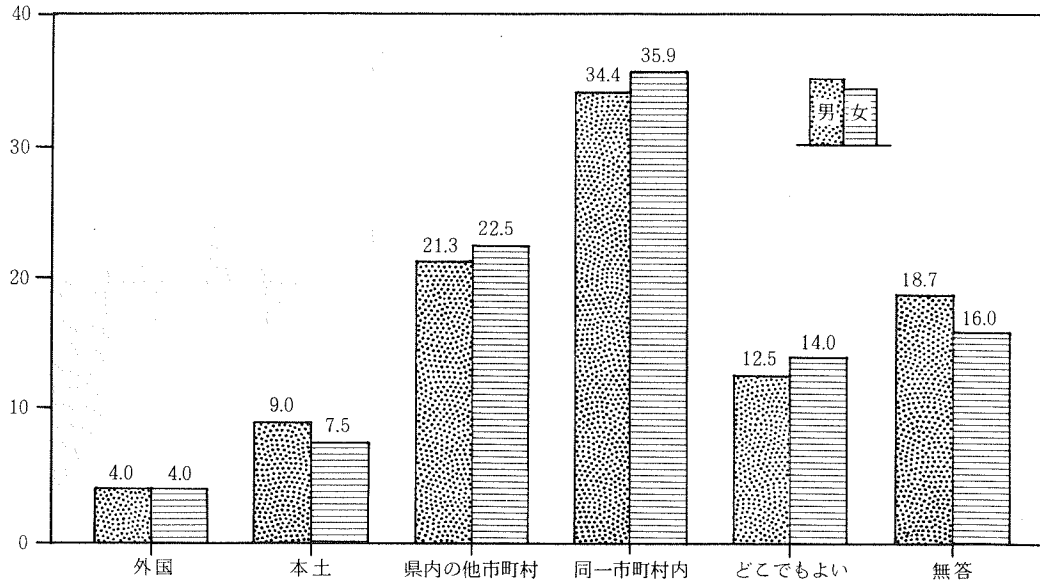
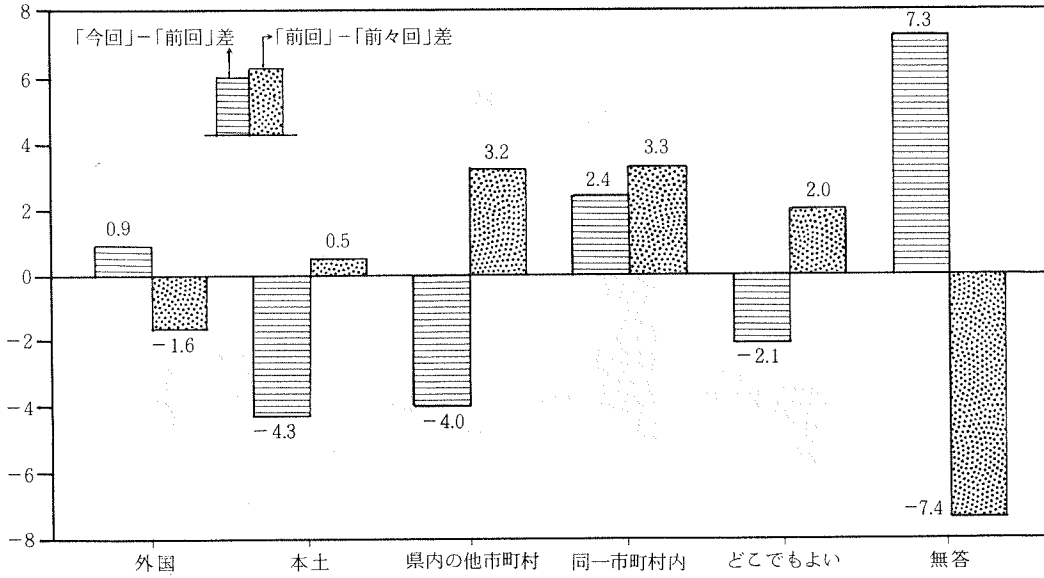


図5-4-17 移転希望先についての調査間のポイント差

① 男

(ポイント)



② 女

(ポイント)

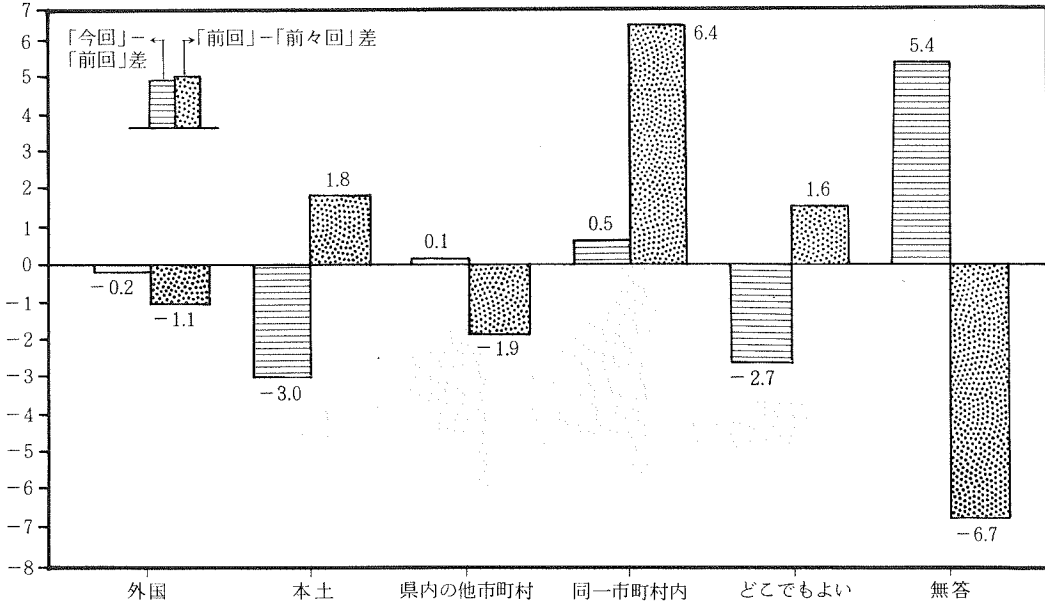


表5-4-4 移転希望先の集計表

① 男女別

(単位：%)

区 分 項 目	県 計			男			女		
	今回	前回	前前回	今回	前回	前前回	今回	前回	前前回
外 国	2.9	2.6	4.0	3.3	2.4	4.0	2.7	2.9	4.0
本 土	5.7	9.4	8.2	5.2	9.5	9.0	6.3	9.3	7.5
県内の他市町村	20.4	22.8	21.9	20.5	24.5	21.3	20.7	20.6	22.5
同一市町村内	41.3	39.8	35.2	40.1	37.7	34.4	42.8	42.3	35.9
どこでもよい	12.7	15.0	13.3	12.4	14.5	12.5	12.9	15.6	14.0
無 答	16.9	10.4	17.3	18.6	11.3	18.7	14.7	9.3	16.0
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100

② 年齢階級別

区 分 項 目	15-19			20-29			30-39		
	今回	前回	前前回	今回	前回	前前回	今回	前回	前前回
外 国	7.6	4.7	16.6	1.2	3.6	2.4	1.7	1.8	1.3
本 土	16.7	24.4	16.0	1.2	12.5	7.0	6.5	6.7	8.4
県内の他市町村	19.7	14.0	21.9	19.5	22.9	22.7	23.5	27.7	21.3
同一市町村内	30.3	29.1	18.7	49.4	41.1	36.1	42.2	38.6	37.6
どこでもよい	15.2	18.6	15.5	18.4	12.5	18.2	7.8	15.8	13.7
無 答	10.6	9.3	11.2	10.3	7.3	13.6	18.3	9.5	17.8
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100

区 分 項 目	40-49			50-59			60~70
	今回	前回	前前回	今回	前前回	前前回	今回
外 国	3.1	2.4	2.8	4.4	-	-	2.8
本 土	3.1	6.6	6.9	4.4	-	-	2.8
県内の他市町村	14.8	21.0	21.5	24.4	-	-	16.7
同一市町村内	43.0	42.5	33.7	37.8	-	-	41.7
どこでもよい	17.2	14.4	9.3	8.9	-	-	19.4
無 答	18.8	13.2	25.6	20.0	-	-	16.7
計	100	100	100	100	-	-	100

③ 地域別

(単位：％)

区 分 項 目	北 部			中 部			那 覇		
	今回	前回	前前回	今回	前回	前前回	今回	前回	前前回
外 国	2.4	3.2	7.1	3.8	3.4	3.8	1.5	2.4	3.0
本 土	11.9	4.8	9.7	3.8	9.5	6.6	4.4	9.8	7.0
県内の他市町村	28.6	21.0	26.6	19.2	21.4	23.3	17.7	15.3	16.0
同一市町村内	26.2	40.3	28.3	39.9	34.6	36.4	52.2	51.2	40.0
どこでもよい	7.1	16.1	9.7	13.0	16.6	15.2	12.3	13.9	12.5
無 答	23.8	14.5	18.6	20.3	14.6	14.7	11.8	7.5	21.5
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100

区 分 項 目	南 部			宮 古			八重山		
	今回	前回	前前回	今回	前回	前前回	今回	前回	前前回
外 国	3.9	2.2	4.8	0	—	—	4.6	—	—
本 土	7.8	5.8	10.2	20.0	—	—	9.1	—	—
県内の他市町村	25.5	39.9	31.9	20.0	—	—	18.2	—	—
同一市町村内	29.4	29.0	26.5	26.7	—	—	54.6	—	—
どこでもよい	16.7	15.9	10.8	13.3	—	—	4.6	—	—
無 答	16.7	7.3	15.7	20.0	—	—	9.1	—	—
計	100	100	100	100	—	—	100	—	—

区 分 項 目	宮古八重山		
	今回	前回	前前回
外 国	2.8	0	4.7
本 土	13.5	22.4	18.6
県内の他市町村	18.9	30.6	15.1
同一市町村内	43.2	32.7	31.4
どこでもよい	8.1	8.2	14.0
無 答	13.5	6.1	16.3
計	100	100	100

④ 居住形態別

(単位：%)

住居別	持家（一戸建）	持家（マンション、共同住宅など）	民間の借家（民営のアパートなど）	公営の借家（県営・市町村営団地など）	社宅・公務員住宅	間借り下宿	独身寮 すみこみ、寄宿舎	その他
外国	5.6	0	1.1	1.8	0	0	0	0
本土	7.9	0	4.8	1.8	13.3	0	0	0
県内の他市町村	21.4	29.2	17.4	17.9	46.7	0	0	0
同一市町村内	32.9	54.2	46.7	51.8	13.3	66.7	0	0
どこでもよい	14.7	8.3	13.3	0.9	0	0	0	0
無答	17.5	8.3	16.7	17.9	26.7	33.3	0	0
計	100	100	100	100	100	100	0	0

⑤ 職業別

職業別	農林漁業	採鉱採石	事務職	管理職	専門技	販売職	運輸通信
外国	0	100	3.2	5.6	3.1	2.4	0
本土	3.9	0	3.2	5.6	1.5	3.6	0
県内の他市町村	19.2	0	20.6	38.9	27.7	15.5	29.4
同一市町村内	30.8	0	14.4	27.8	53.9	44.1	35.3
どこでもよい	15.4	0	14.3	5.6	7.7	10.7	11.8
無答	30.8	0	14.3	16.7	6.2	23.8	23.5
計	100	100	100	100	100	100	100

職業別	技能工	保安職	サービス職	主婦	学生生徒	無職	その他
外国	1.5	0	2.1	1.0	6.9	7.3	2.2
本土	6.1	20.0	0	9.8	13.8	7.3	6.7
県内の他市町村	12.1	40.0	23.4	24.5	17.2	14.6	15.6
同一市町村内	59.1	0	48.9	39.2	25.9	31.7	33.3
どこでもよい	9.1	20.0	4.3	10.8	20.7	19.5	24.4
無答	12.1	20.0	21.3	14.7	15.5	19.5	17.8
計	100	100	100	100	100	100	100